

# 第8回神奈川県安全性向上委員会

## 議事次第

日時：平成23年10月26日（水）10:00～12:00

場所：横浜国道事務所大会議室

### 1. 開 会

### 2. 挨 拶

### 3. 議 事

- 1) 昨年度の委員会の取組みについて
- 2) 今後の事故危険区間重点解消作戦  
「事故ゼロプラン」の進め方について
- 3) 地域連携による交通安全対策の取組みについて
- 4) 神奈川県の安全対策の取組みについて

### 4. 閉 会

#### 資 料

- 資料－1 神奈川県 安全性向上委員会
- 資料－2 代表区間の事業進捗状況
- 資料－3 代表区間の事故発生状況

#### 参考資料

- 参考－1 設立趣意書
- 参考－2 規約

#### その他資料

- 委員名簿
- 座席表

## 神奈川県安全性向上委員会 委員名簿

- ◎ 横浜国立大学大学院工学研究院 准教授 岡村 敏之
- (社) 神奈川県安全運転管理者連合会 専務理事 舩甚 英俊
- (財) 横浜市交通安全協会 常務理事 島田 晴規
- (社) 川崎市交通安全協会 専務理事 小田 忠信
- (社) 神奈川県トラック協会 専務理事 大川 充磨
- (社) 神奈川県タクシー協会 専務理事 会田 辰三郎
- (社) 神奈川県バス協会 常務理事 山崎 利通
- 国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所長 和泉 晶裕
- 国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所長 石井 武
- 国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所長 田村 央
- 神奈川県警察本部交通部交通規制課長 津村 優介
- 神奈川県安全防災局安全安心部くらし安全交通課長 怒田 伸行
- 神奈川県県土整備局道路部道路管理課長 三浦 雅彦
- 横浜市道路局道路部長 高木 勇一
- 川崎市建設緑政局道路河川整備部担当部長 小塚 勝
- 相模原市都市建設局土木部長 古川 交末
- 東日本高速道路株式会社 関東支社  
京浜管理事務所長 上倉 勉
- 中日本高速道路株式会社 東京支社 保全・サービス事業部  
道路管制センター 交通管制チームリーダー 沢本 直樹
- 首都高速道路株式会社 神奈川管理局  
調査・環境グループ 課長 小川 隆

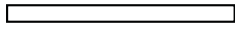
◎ 委員長

(敬称略)

第8回 神奈川県安全性向上委員会 座席表

日時：平成23年10月26日（水） 10:00~12:00

場所：横浜国道事務所大会議室



スクリーン

入口

国土交通省 関東地方整備局  
横浜国道事務所長  
和泉 晶裕

国土交通省 関東地方整備局  
川崎国道事務所長  
石井 武  
(副所長 菅野 和典)

国土交通省 関東地方整備局  
相武国道事務所長  
田村 央

神奈川県安全防災局安全安心部  
くらし安全交通課長  
怒田 伸行  
(主査 久保 透)

神奈川県県土整備局道路部  
道路管理課長  
三浦 雅彦  
(主査 小鈴 一夫)

横浜市道路局  
道路部長  
高木 勇一  
(担当課長 菊池 弘)

川崎市建設緑政局  
道路河川整備部 道路施設課  
担当理事  
小塚 勝  
(課長 濱見 健)

相模原市都市建設局  
土木部長  
古川 交末  
(土木部 参事 藤井 弘造)

プロジェクター

横浜国立大学大学院  
工学研究院 准教授  
岡村 敏之

(社) 神奈川県安全運転管理者連合会  
専務理事  
舩甚 英俊

(財) 横浜市交通安全協会  
常務理事  
島田 晴規

(社) 川崎市交通安全協会  
専務理事  
小田 忠信

(社) 神奈川県トラック協会  
専務理事  
大川 充磨

(社) 神奈川県タクシー協会  
専務理事  
会田 辰三郎  
(業務課長 久保田 貢)

(社) 神奈川県バス協会  
常務理事  
山崎 利通  
(参与 滝島 均)

神奈川県警察本部交通部  
交通規制課長  
津村 優介  
(課長補佐 重岡 康二)



事務局

事務局

課長 小川 隆  
(課長代理 割田 博)  
首都高速道路株式会社  
神奈川県管理局 調査・環境グループ  
交通安全チームリーダー  
沢本 直樹  
中日本高速道路株式会社 東京支社  
保全・サービス事業部道路管制センター

( ) は代理出席者

入口

事務局



## 神奈川県安全性向上委員会

### 設立趣意書

平成17年12月

道路は生活に欠くことのできない社会基盤であり、この道路上では、人やモノの移動に伴い、移動手段（自動車、自転車、歩行など）、移動手段を運転する人間（ドライバー、歩行者など）、および移動手段をとりまく交通環境（道路構造、交通規制・制御、地形条件、気象・自然条件など）が絡み合うことにより、交通事故が発生し、生活や経済活動に多大なストレスと損害を生じさせている現実がある。このため、道路の安全性の向上を図ることは、道路行政として喫緊の課題である。

このような背景のもと、神奈川県内の安全性向上を図るにあたり、「神奈川県安全性向上委員会」を設立し、交通事故特性の分析、要対策箇所を選定及び要対策箇所の事故対策の立案を行い、これらを公表し、道路利用者の理解・協力ならびに注意喚起を図るものである。

## 神奈川県安全性向上委員会規約

(名称)

第1条 本会議は「神奈川県安全性向上委員会（以下、「委員会」という）」と称する。

(目的)

第2条 委員会は、神奈川県内の安全性向上について、公正・中立的な立場から、交通事故特性の分析、要対策箇所を選定及び要対策箇所の事故対策の立案を行い、これらを公表し、道路利用者の理解・協力ならびに注意喚起を図ることを目的とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するために、以下の事項について実施するものとする。

- (1) 交通事故特性の分析
- (2) 要対策箇所を選定方針の立案及び、選定方針の修正並びに要対策箇所を選定
- (3) 要対策箇所の事故対策の立案、整備効果の検証
- (4) その他必要な事項

(構成)

第4条 委員会は、別紙に掲げる委員で構成する。

- 2 委員の追加・変更は、委員会の承認を要するものとする。

(第三者性)

第5条 委員は、委員会の目的に照らし、公正・中立な立場から特定の行政機関及び特定利害関係者等の利害を代表してはならない。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、委員会の所掌事項を完了するまでとする。

(委員長)

第7条 委員会には委員長をおくものとする。

- 2 委員長が職務を遂行できない場合は、予め委員長から指名する委員がその職務を代理する。
- 3 委員長は、必要に応じて委員以外の関係者の出席を求めることができる。

(委員会の運営)

第8条 委員会は、委員長の発議に基づいて開催する。

- 2 委員会は、委員会の運営にあたり必要な資料等を事務局に求めることができる。

(守秘義務)

第9条 委員は、個人情報など公開することが望ましくない情報を漏らしてはならない。

(委員会資料の公開)

第10条 委員会に提出された資料は、公開の対象とする。

(事務局)

第11条 事務局は、国道交通省関東地方整備局横浜国道事務所交通対策課に置くものとする。

(その他)

第12条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、その都度審議して定めるものとする。また、本規約の改正等は、本委員会の審議を経て行うことができるものとする。

付則 この規約は、平成18年11月20日から施行する。

## 第8回 神奈川県 安全性向上委員会

1. 昨年度委員会の振り返り
2. 今後の事故危険区間重点解消作戦  
「事故ゼロプラン」の進め方
3. 地域連携による交通安全対策の取組み方
4. 神奈川県の安全対策の取組み状況報告
5. 今後のスケジュール

平成23年10月26日

## 1 昨年度委員会(第6、7回)の振り返り

P3~

- ▶ 昨年度、展開した事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」について、導入経緯、事故危険区間の選定方法及び選定結果を振り返る。

## 2 今後の「事故ゼロプラン」の進め方

P9~

- ▶ 「事故ゼロプラン」の進捗状況を報告するとともに、PDCAサイクルにより効率的・効果的に取組むための進め方(運用ルール)について確認する。  
⇒ 「事故ゼロプラン」の進め方についてご意見を伺いたい。

## 3 地域連携による交通安全対策の取組み方

P18~

- ▶ 地域連携による交通安全対策として広報活動(現地表示や記者発表)と合同現地点検等の取組み方について確認する。  
⇒ 広報活動や合同現地点検の取組みについてご意見を伺いたい。

## 4 神奈川県交通安全対策の取組状況報告

P22~

- ▶ これまでの県内の交通安全対策の取組みとして、事故危険箇所(H15指定)を事例とし、対策効果のフォローアップ結果を報告する。

## 1. 昨年度委員会の振り返り

- 『事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」』の展開
- 事故危険区間選定までの流れ
- 交通安全課題区間の選定指標
- 広報活動（代表区間（53区間）の公表、リーフレットの作成）



代表区間位置図 リーフレットより



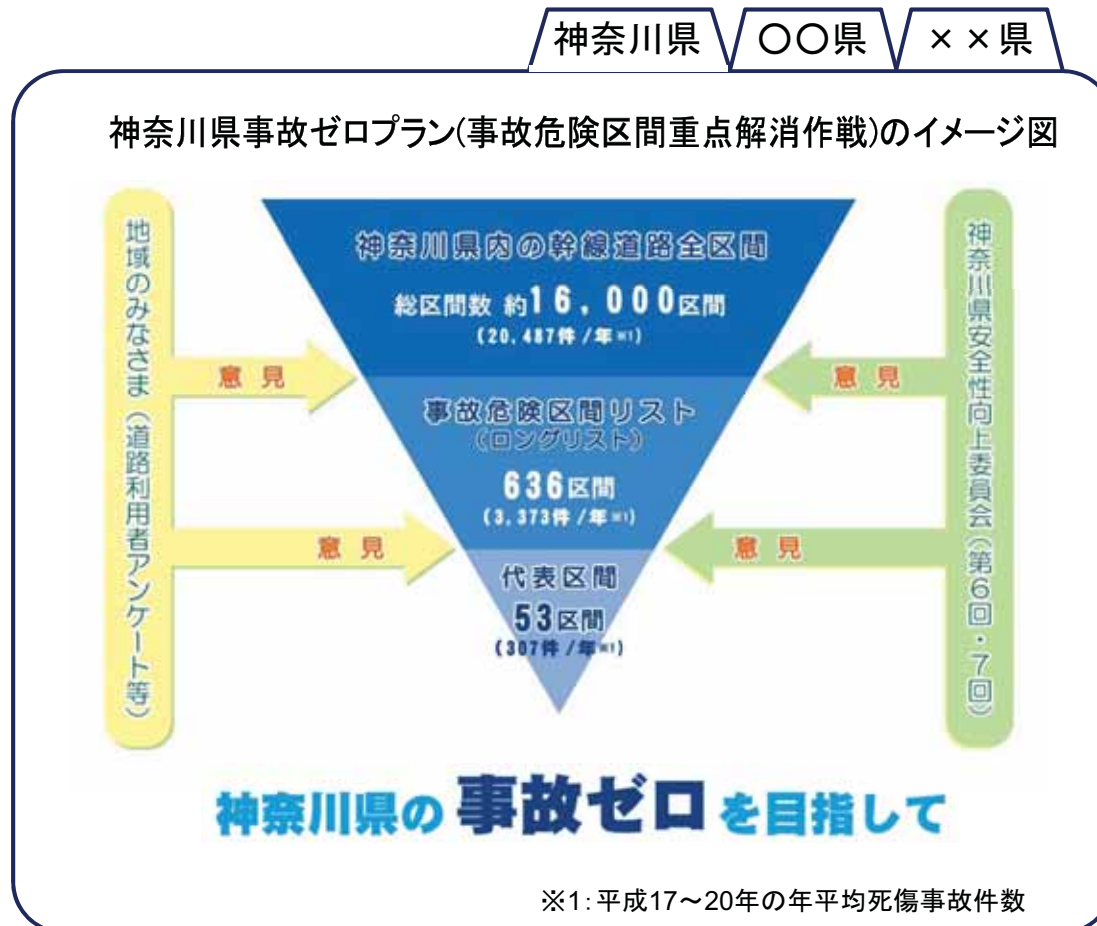
# 1. 昨年度委員会の振り返り（1）

## 『事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」』の展開

- ・神奈川県内の幹線道路を対象に、安全・安心な道路交通環境を実現するため、**地域の皆さまと連携して重点的に**交通事故対策を進めていく取組み。
- ・本委員会の審議を経て『新たな交通安全課題区間(事故危険区間)』を選定。今後は、『**事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」**』として展開。

### ■計画の概要

県内の幹線道路の中から、事故の危険性が高い区間(事故危険区間)のリストを地域の皆さまとの協働によって選定。

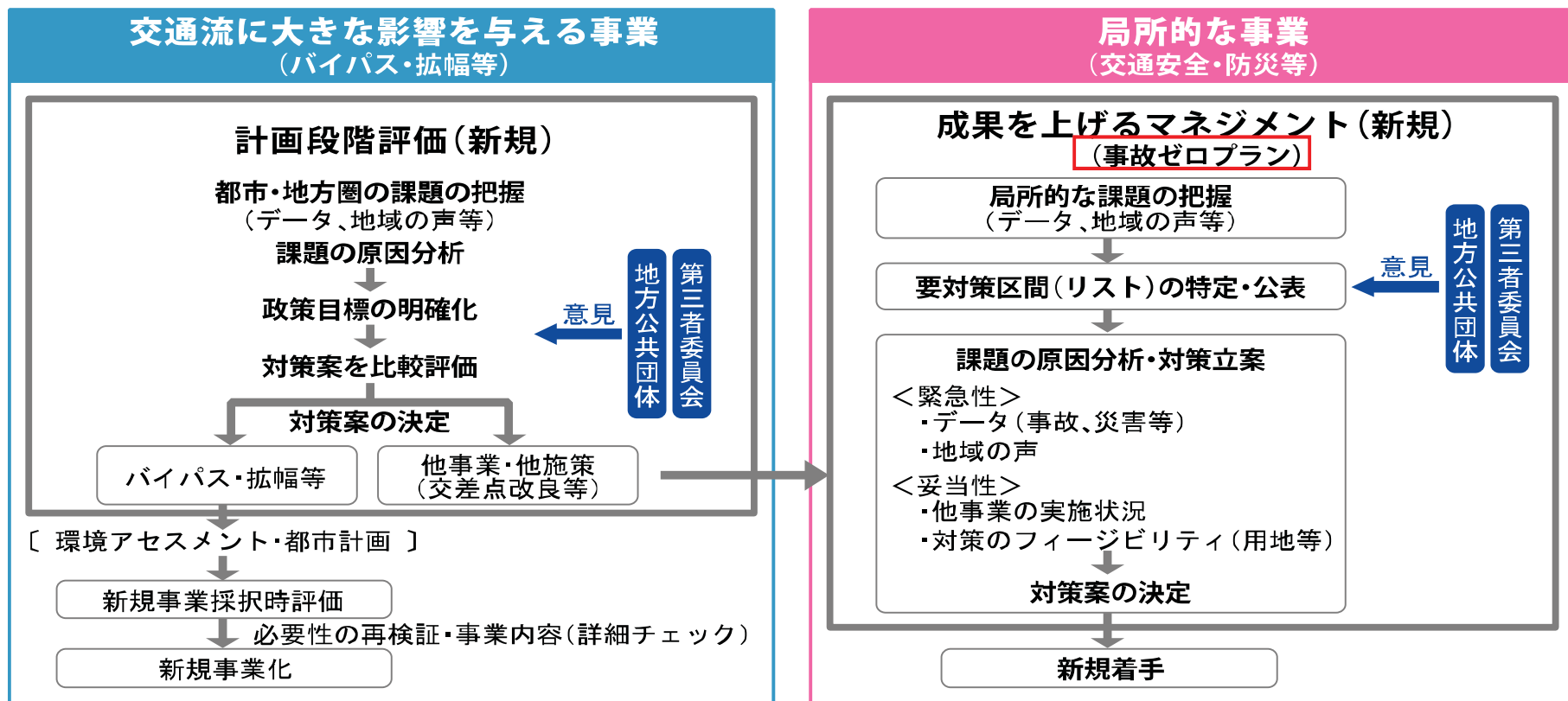


政策目標評価型事業評価  
(国土交通省における事業評価の新たな取り組み)

# 1. 昨年度委員会の振り返り（2）

## 【参考】「政策目標評価型事業評価」の概要

- ・国土交通省は、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の向上を図るため、平成22年8月に「政策目標評価型事業評価」を導入。
- ・バイパス・拡幅事業等に「計画段階評価」を導入するとともに、交通安全・防災等の局所的な事業に対しても、データや地域の声等に基づく「成果を上げるマネジメント」を導入。
- ・事故ゼロプランは、「成果を上げるマネジメント」の取り組みのひとつ。限られた予算の中、交通安全対策（交通事故対策・歩道等の整備）への投資効果を最大限に高める。

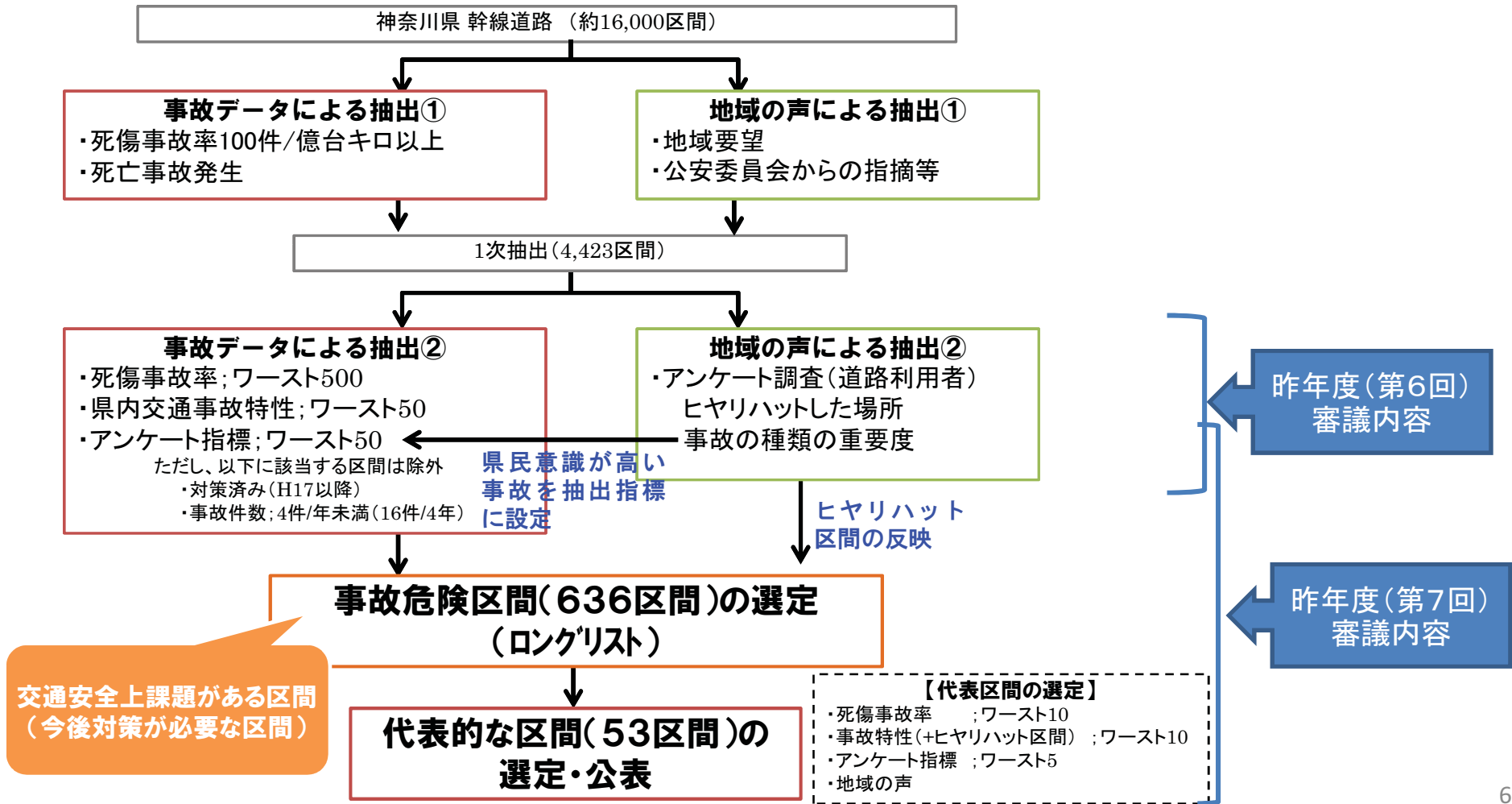


政策目標評価型事業評価の導入に係る道路事業における取り組みについて(平成22年8月9日国土交通省記者発表資料)より作成

# 1. 昨年度委員会の振り返り (3)

## 事故危険区間選定までの流れ

- ・国、県、政令市が管理する神奈川県内の幹線道路を対象に、「事故データ」及び「地域の声」により交通安全上課題がある区間を抽出し、本委員会の審議を経て「事故危険区間」(636区間)を選定。
- ・「事故危険区間」の中から、より課題の大きい区間等を選定し、神奈川県内の代表的な区間として53区間を選定・公表に至る。



# 1. 昨年度委員会の振り返り（4）

## 交通安全課題区間の抽出指標

- ・「事故データ」による抽出は、死傷事故率や県内の交通事故特性、またアンケートで挙げられた減らしたい事故形態を指標に設定し、それぞれの事故のワースト区間を抽出。
- ・「地域の声」による抽出は、**公安委員会や地域の自治体の意見の他、一般の道路利用者や各団体に対してアンケート調査を実施。道路利用者が重要視する(減らしたい)事故の種類・場所およびヒヤリハットした場所**について収集。

### ■事故データによる抽出指標

抽出の視点	着目事故類型・形態	指標のしきい値※	指標設定理由
死傷事故	—	死傷事故率 県内 ワースト500	基本指標
神奈川県 事故特性 (地域特 性の反 映)	追突事故	県内 ワースト50	・発生割合が高い ・渋滞が多く、発進・停止を繰り返す
	二輪車関与事故		・二輪車事故の割合が高い ・二輪車保有台数:全国2位
	自転車関与事故	・自転車保有台数:全国4位	
	右・左折時事故	・発生割合が高い ・渋滞が多く、交差点での無理な進行が多く発生	
	高齢者関与事故	・致死率が高い(交通弱者)	
アンケート 指標 (県民、道 路利用者 が重要視 する事故)	子供が被害に遭う事故	県内 ワースト50	・致死率が高い(交通弱者)
	歩行者が関連する事故		・致死率が高い(人対車両事故)
	重大事故		・致死率が高い事故類型 (人対車両・正面衝突・車両単独)
	通学路		・「子供が被害に遭う事故」に関連
	あんしん歩行エリア		・「歩行者が関連する事故」に関連

※着目事故類型・形態の死傷事故率で評価  
※事故データはH17-20の4カ年

### ■地域の声による抽出方法

#### (道路利用者アンケート)

#### 【一般の道路利用者】

調査方法	インターネット モニターアンケート	国道事務所 HPアンケート	合計
実施期間	平成22年 11月15日～11月22日	平成22年 11月15日～11月30日	平成22年 11月15日～11月30日
対象	神奈川県民インターネットモニター 15歳以上	神奈川県民、道路利用者 横浜・相武・川崎国道事務所 HP閲覧者	—
内容	問1. 事故の種類的重要度 ①車同士の事故、②二輪車が関連する事故、③自転車が関連する事故、④歩行者が関連する事故、 ⑤子供が被害に遭う事故、⑥高齢者が被害に遭う事故、⑦亡くなる方が多い重大な事故、⑧その他 問2. 特に減らしてほしい事故の種類(上記1より、特に減らしてほしい種類一つを選定) 問3. 事故の場所的重要度 ①自動車交通量が多い道路、②歩行者交通量が多い道路、③自転車交通量が多い道路、 ④通学路として利用されている道路、⑤駅付近の道路、⑥住宅地付近の道路、⑦その他 問4. 特に減らしてほしい事故の場所(上記3より、特に減らしてほしい場所一つを選定) 問5. ヒヤリハットした場所		
回収	1, 100票	90票	1, 190票

#### 団体(トラック協会・タクシー協会・バス協会(3協会))

調査方法	神奈川県トラック協会 アンケート	神奈川県タクシー協会 アンケート	神奈川県バス協会 アンケート	合計
実施期間	平成22年 11月17日～11月30日			平成22年 11月17日～11月30日
対象	主に業務として道路を利用している方			—
内容	問1. 死傷事故率上位100箇所についてどのように思いますか 問2. 1以外に追加すべき場所がありますか 問3. ヒヤリハットした場所			
回収	22票	148票	18票	188票

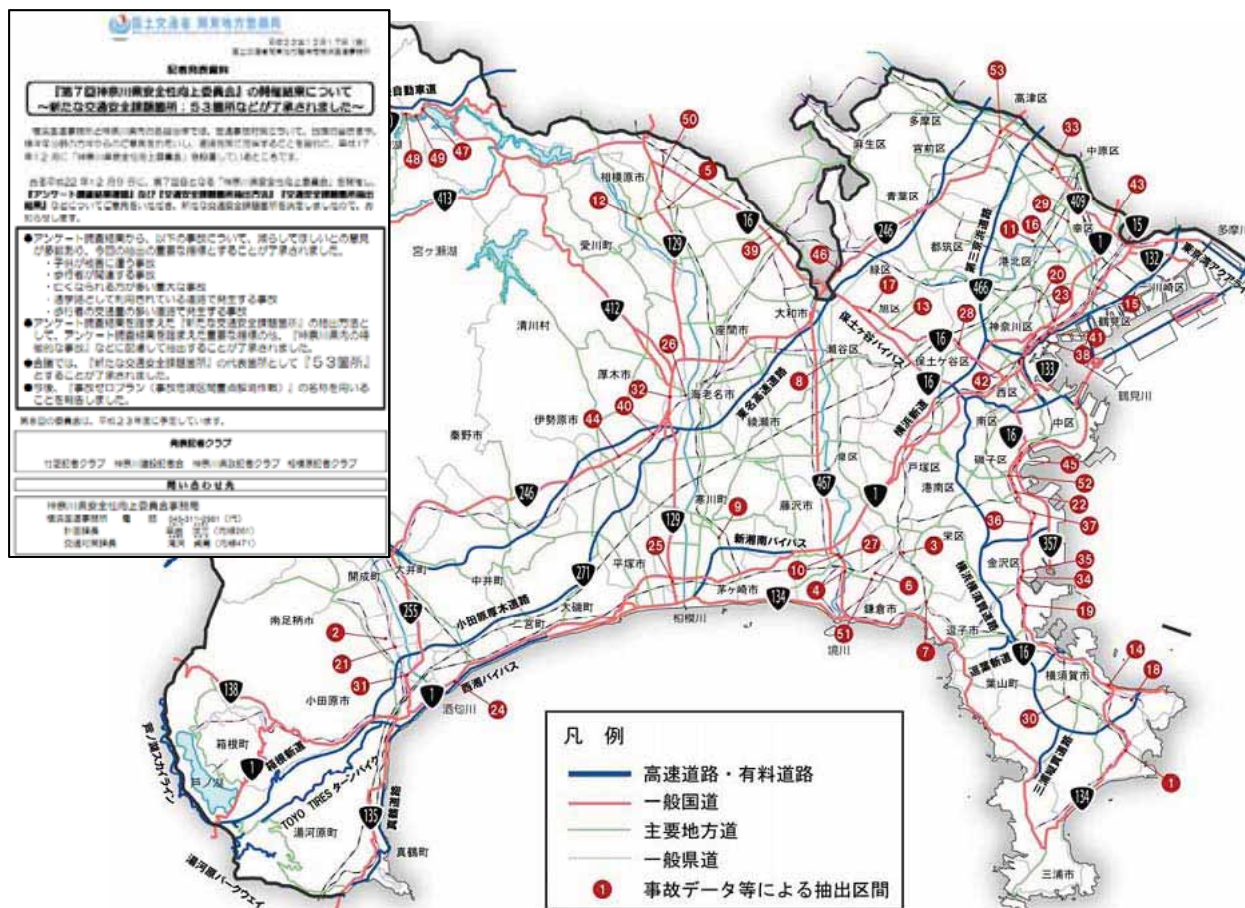
※アンケートで複数名指摘箇所を選定

# 1. 昨年度委員会の振り返り (5)

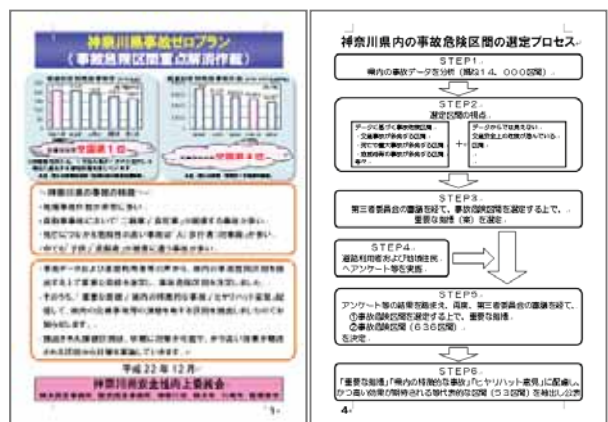
## 広報活動(代表区間(53区間)の公表、リーフレットの作成)

- ・代表区間53区間については、昨年度委員会での取組み内容と併せて記者発表を通じて公表。
- ・また、神奈川県内の事故概要や事故危険区間の選定プロセスを取りまとめたリーフレットを作成し公表。

### 代表区間(53区間)の公表



### リーフレットの作成



## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方

- 事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」をめぐる動き
- PDCAサイクルと地域連携による取組み
- Plan：事故危険区間リスト選定の枠組みの整理
- Plan：事故危険区間リストの更新ルール（案）
- Plan：今後の事業実施の流れと実施優先度の考え方
- Do：対策実施、広報活動
- Check：進捗状況と今後の予定
- 事故危険区間重点解消作戦の年間スケジュール

■「事故ゼロプラン」のPDCAサイクル



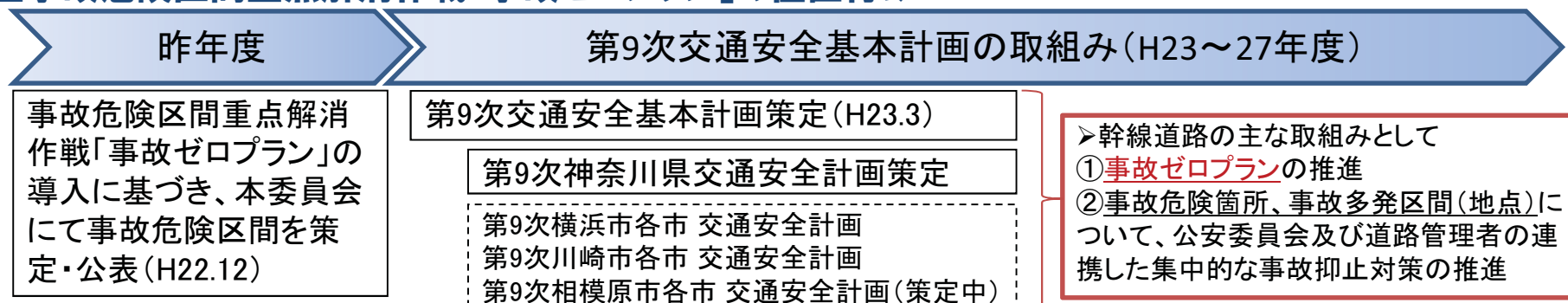
事故危険区間重点解消作戦のPDCAサイクル

## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（1）

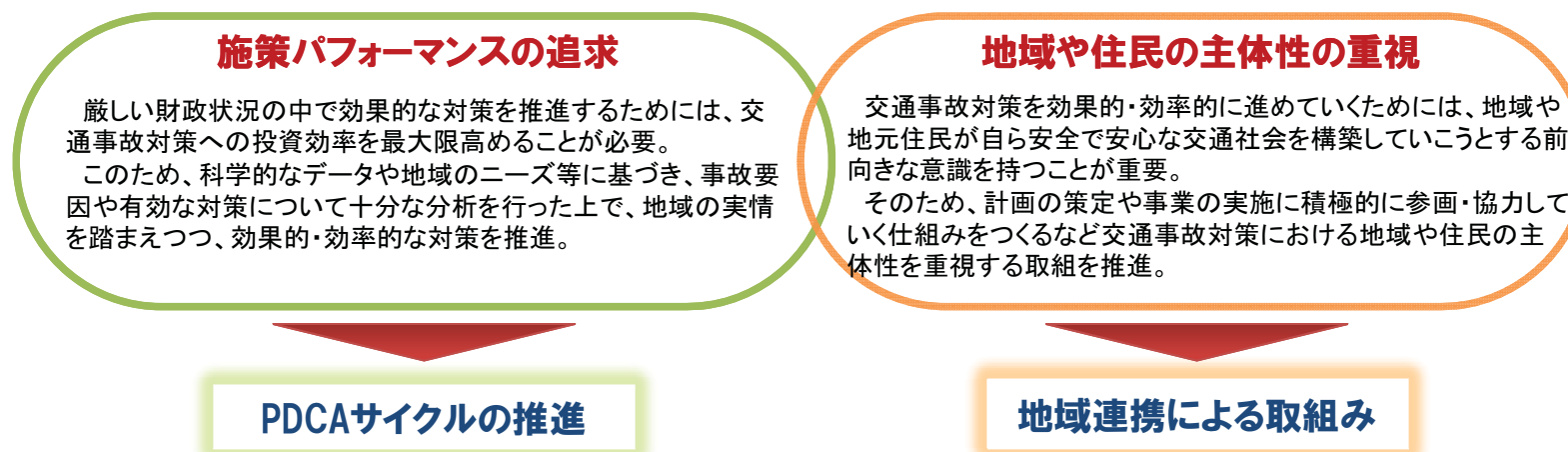
### 事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」をめぐる動き

- ・事故ゼロプランは、今年度から「第9次交通安全基本計画（H23.3策定）」及び「第9次神奈川県交通安全計画」の中で幹線道路における交通安全対策の主な取組みとして挙げられている。
- ・上記の計画では、道路交通環境の整備の基本戦略として「施策パフォーマンスの追求」と「地域や住民の主体性の重視」の取組みを推進している。
- ・これを受け、本取組みについても「PDCAサイクルの推進」と「地域連携」を基本戦略として進める。

### ■事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」の位置付け



### ■第9次交通安全基本計画：道路交通環境整備の2つの基本戦略

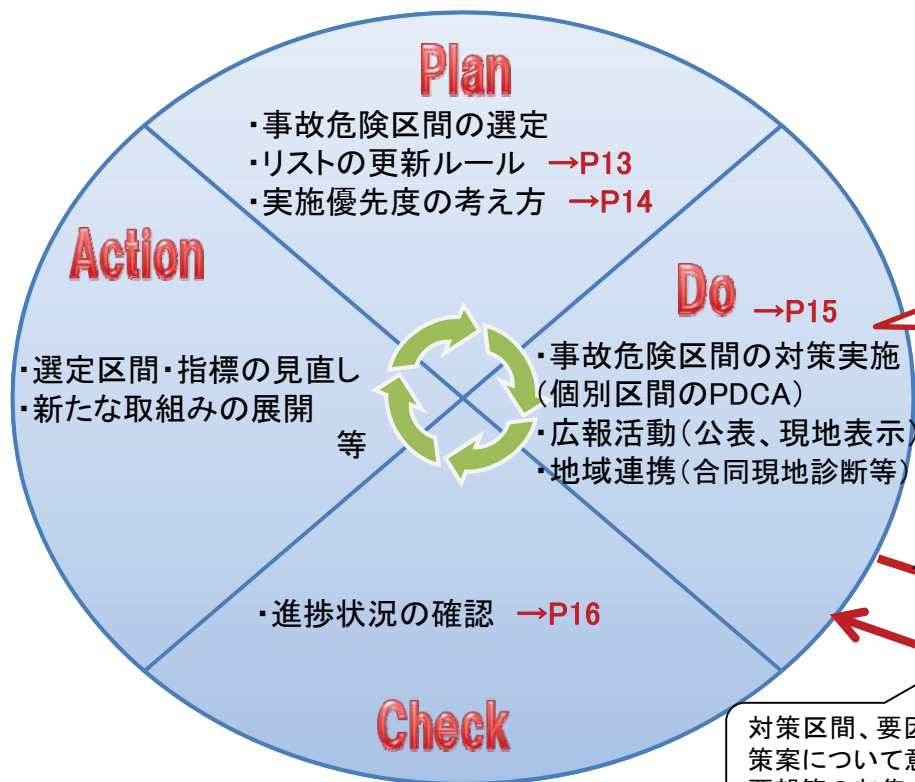


## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（2）

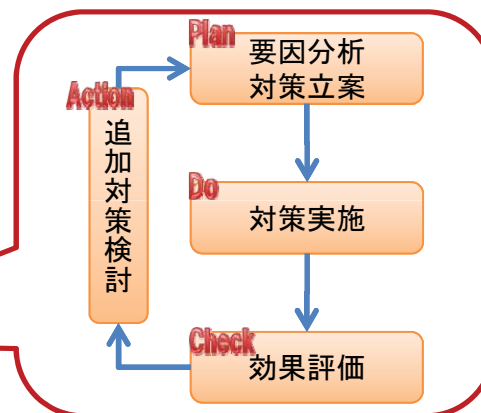
### PDCAサイクルと地域連携による取組み

- ・昨年度選定した事故危険区間に対して、効果的・効率的な対策に取り組むため**事故ゼロプランのPDCAサイクル**と**個別区間のPDCAサイクル**をそれぞれのマネジメントサイクルで推進。
- ・また、**広報活動等を積極的に展開**することで地域への情報発信、情報の共有を図り**地域連携による交通安全対策**を促進する。

#### ■「事故ゼロプラン」のPDCAサイクル



#### ■個別区間のPDCAサイクル



#### ■地域連携による交通安全対策

危険区間の周知、  
危険意識の向上

対策区間、要因、対  
策案について意見、  
要望等の収集

# 地域

##### 【広報活動メニュー】

##### ●施策全体

取組み、全体進捗状況等の周知  
記者発表、リーフレット作成

##### ●個別区間

現地表示（看板設置）  
合同現地点検の実施  
対策実施、対策効果の広報



## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（3）

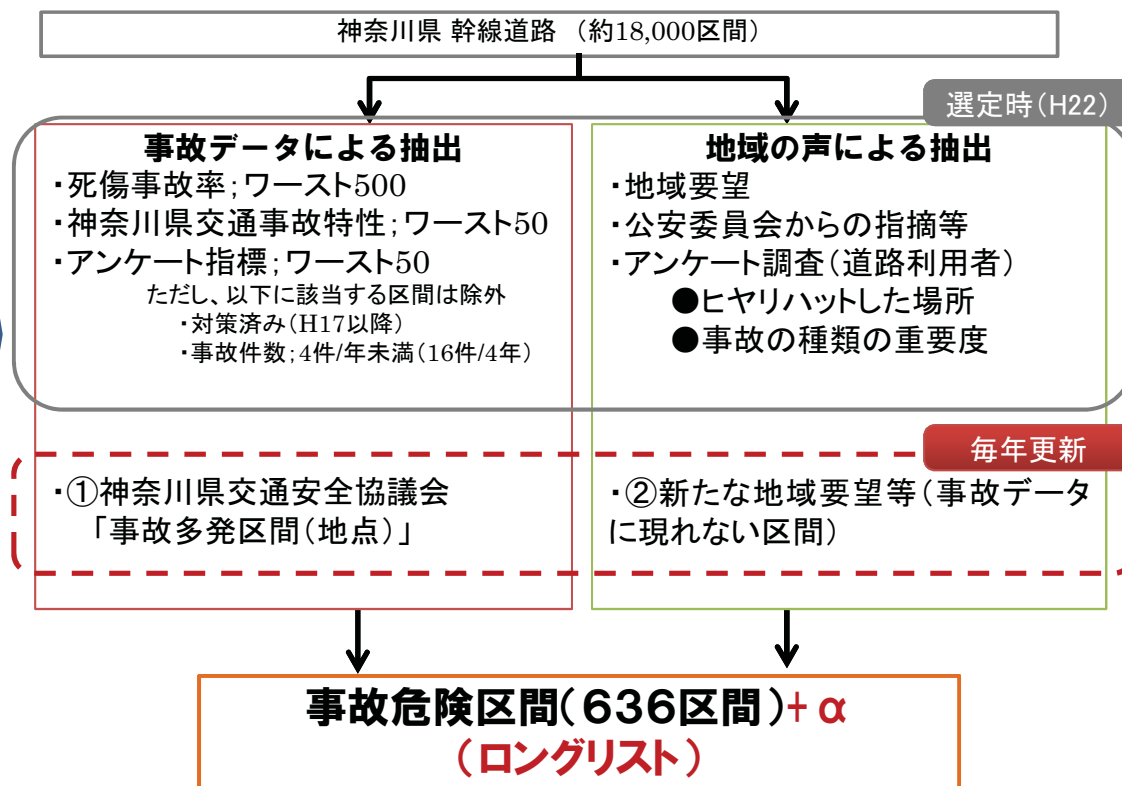
### Plan 事故危険区間リスト選定の枠組みの整理

- ・「事故データによる抽出(定量的データ)」および「地域の声による抽出(定性的データ)」の位置付けを明確にし、それぞれの選定基準の役割も明確にし、選定の枠組みを再整理する。
- ・「事故データによる抽出」は、昨年度抽出区間(H17～H20事故データ)を基本。さらに、最新の事故発生状況を考慮する必要から、①神奈川県交通安全協議会「事故多発区間(地点)」(最新の事故発生状況を考慮して危険区間を毎年選定)によりリストを更新。
- ・また「地域の声による抽出」においても、②新たな地域要望等を受けてリストを更新。

### ■事故危険区間選定フローの再構築

#### 昨年度事故危険区間の選定基準

死傷事故率	死傷事故率の県内上位500区間を抽出
神奈川県内の特徴的な事故	下記の各事故率上位50区間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・追突事故</li> <li>・左折事故</li> <li>・右折事故</li> <li>・二輪車が関連する事故</li> <li>・自転車が関連する事故</li> <li>・歩行者が関連する事故</li> <li>・亡くなられる方が多い重大な事故</li> <li>・子供が被害に遭う事故</li> <li>・高齢者が被害に遭う事故</li> <li>・通学路として使用されている道路</li> <li>・歩行者が多い道路(あんしん歩行エリア)</li> </ul>
安全性の危惧	地域からの声、事故発生の危険の可能性が考えられる区間を抽出
アンケート結果の反映	アンケートにより、ヒヤリハット区間として、多くの意見が寄せられた区間を抽出



## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（4）

### Plan 事故危険区間リストの更新ルール(案)

- ・当初選定区間を基本とした上で、事業のスピード感を確保したリスト更新(追加、卒業)ルールを設定。
- ・交通死傷事故の希少的性質に配慮しつつも、道路交通環境の変化に迅速に対応。
- ・地域の声による抽出においても、最新の地域要望等を踏まえて更新を行う。

#### 追加条件

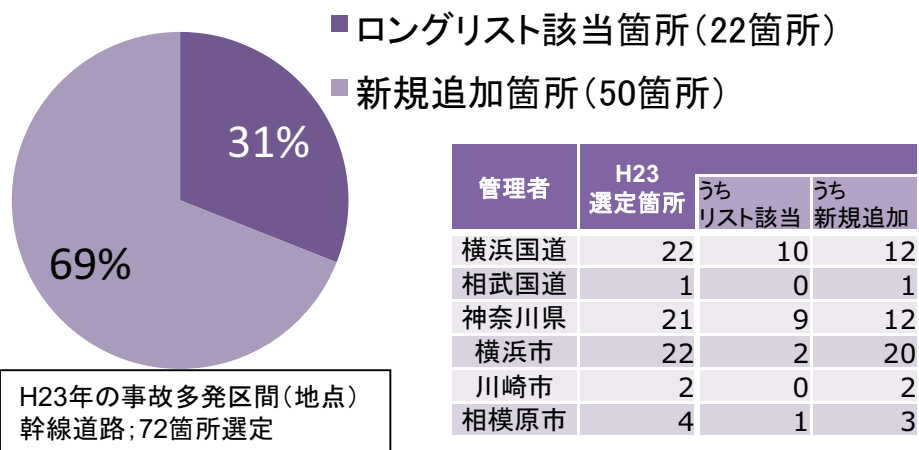
- 以下に該当し、安全性向上委員会へ報告・審議を経て追加※
- ①最新データによる神奈川県交通安全協議会「事故多発区間(地点)」選定区間
  - ②新たな地域要望等区間  
(歩道整備等の事故データで課題の大きさを測れない区間)

※新たに緊急的な対応が必要と判断された区間は、委員会開催時期を待たず、事後報告で対応することとする。

#### 卒業・削除条件

- ①対策完了後、経過観察区間に位置付け。その後、対策後2年分事故データを蓄積し、2割以上の事故削減効果が認められた区間をリスト卒業とする。
- ②地域の声に基づく抽出区間では、安全化事業完了によりリストを卒業。
- ③対策未実施も、2年間以上連続してデータによる選定条件に該当せず、現地確認(商業施設撤退などの交通環境変化)を実施した区間はリストから削除。

### ■H23年「事故多発区間」の選定状況



### ■事故削減の目標値(案)

第9次交通安全基本計画 道路交通安全についての目標  
H27年までに交通事故死傷者数を700,000人以下にする  
※H22年度896,208人に対し**22%削減**

事故危険区間の対策実施区間について  
死傷事故件数 **2割以上の削減**を目標

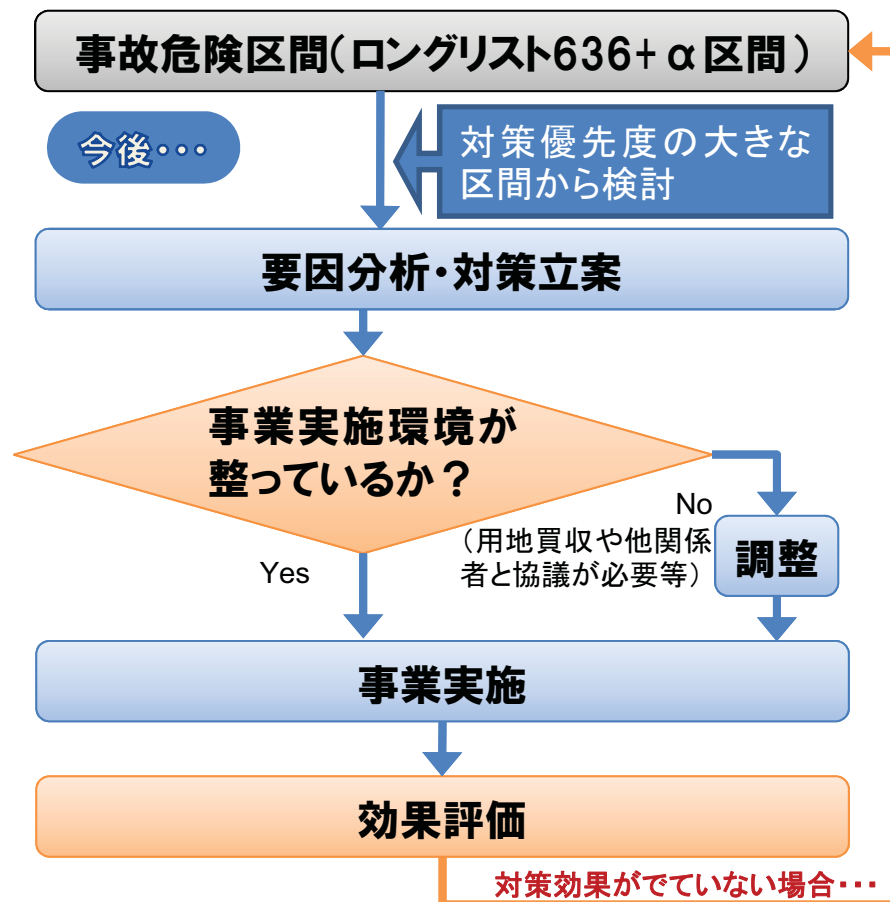
※当初リストに該当する区間から優先的に事業化

## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（5）

### Plan 今後の事業実施の流れと実施優先度の考え方

- ・死傷事故率が高いなど課題の大きな区間、重大事故が発生するなど高い効果が期待される区間、通学路の安全確保などの地域要望内容などから順次に要因分析・対策立案を実施。
- ・対策立案後は、事業実施環境（他事業の実施状況やフィージビリティ）を確認し、必要に応じて他関係者等と調整した後、事業実施へ。
- ・要因分析・対策立案区間や事業実施区間は、各道路管理者の事業スタミナ等により順次着手。

#### 事業実施フロー



#### 実施優先度の考え方

視点	ねらい	優先度指標	抽出箇所
課題が大きい区間	死傷事故の削減	死傷事故多発区間	死傷事故が多発または発生しやすい(死傷事故率が高い)区間
	死亡事故の削減	重大事故発生区間	死亡事故や重大事故が多発または発生しやすい区間
効果が期待できる区間	効果的・効率的な対策効果	事故類型	同類の事故類型や当事者の事故が集中して発生している区間
		当事者	
地域要望がある区間	事故データで測れない課題区間	安全性への配慮	通学路やあんしん歩行エリアに指定されている区間
		潜在的危険区間	アンケート調査で収集したヒヤリハットや地域要望がある区間

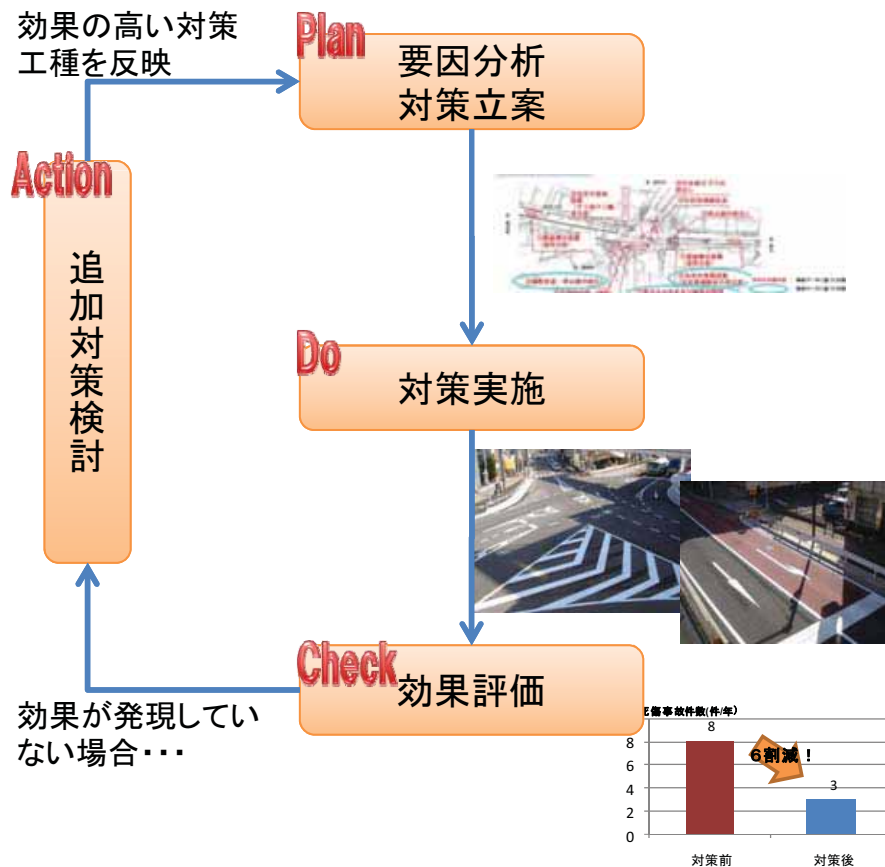
※優先度の検討は、最新状況(事故データや地域要望)により毎年見直し

## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（6）

### Do 対策実施、広報活動

- ・個別区間の対策実施については、PDCAによるマネジメントサイクルで実施。
- ・広報活動として、現地表示（看板設置）や地域住民等との合同現地地点検等を実施。
- ・対策実施前後や効果評価結果について積極的に広報を行う。

#### ■個別区間のPDCAサイクル



#### ■広報活動

現地表示（看板設置）  
合同現地地点検の実施  
対策実施、対策効果の広報



#### ■地域連携による対策実施

合同現地診断の実施  
地域の実情、背景を勘案  
した要因分析・対策立案



（地元の方々との協働による現地診断実施中）

合同現地地点検の実施

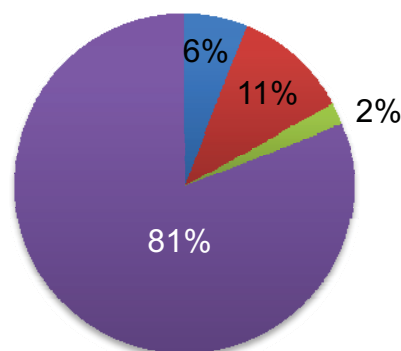
## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（7）

### Check 進捗状況と今後の予定

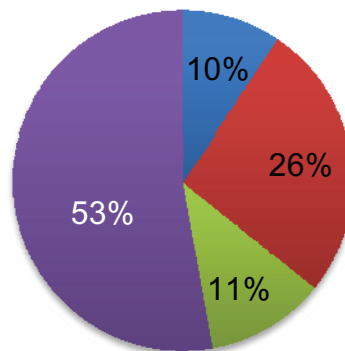
- ・現在の事故危険区間の進捗状況は、  
事業完了および事業中：17%、関係機関調整中：2%、要因分析・対策立案中：81%。
- ・昨年、公表した代表区間は、  
事業完了および事業中：36%、関係機関調整中：11%、要因分析・対策立案中：53%。

#### ■ 事故危険区間の対策進捗状況

事故危険区間：636区間



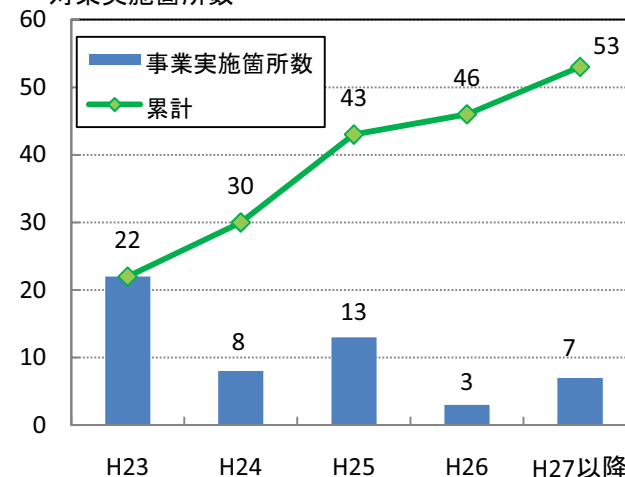
代表区間：53区間



■ 事業完了 ■ 事業中 ■ 関係機関調整中 ■ 要因分析・対策立案中

#### ■ 今後の対策実施予定(代表区間)

対策実施箇所数



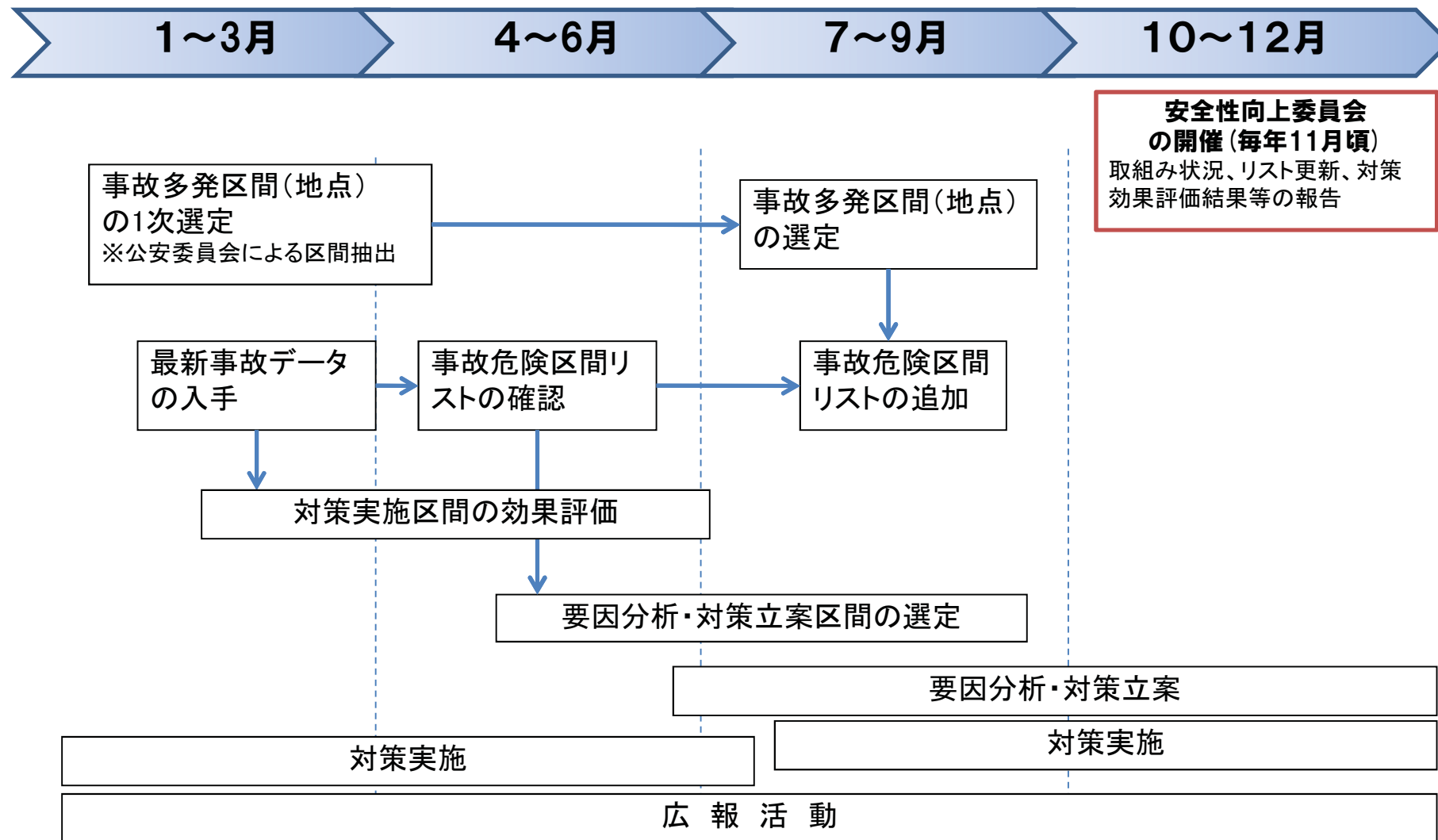
#### ■ 道路管理者別の対策進捗状況

道路管理者	事業完了	事業中	関係機関調整中	要因分析・対策立案中	総計
横浜国道	19	29	10	151	209
相武国道	2	19	1	50	72
神奈川県	9	7	0	224	240
横浜市	9	9	1	28	47
川崎市	0	0	2	42	44
相模原市	0	5	0	19	24
総計	39	69	14	514	636

## 2. 今後の「事故ゼロプラン」の進め方（8）

### 事故危険区間重点解消作戦の年間スケジュール

#### ■年間スケジュール



### 3. 地域連携による交通安全対策の取組み方

- ・ 地域連携による交通安全対策の取組み
- ・ 事故危険区間の現地表示（看板設置）による危険区間の周知
- ・ 地域連携による交通安全対策の取組み



「事故ゼロプラン」現地表示看板の全国展開



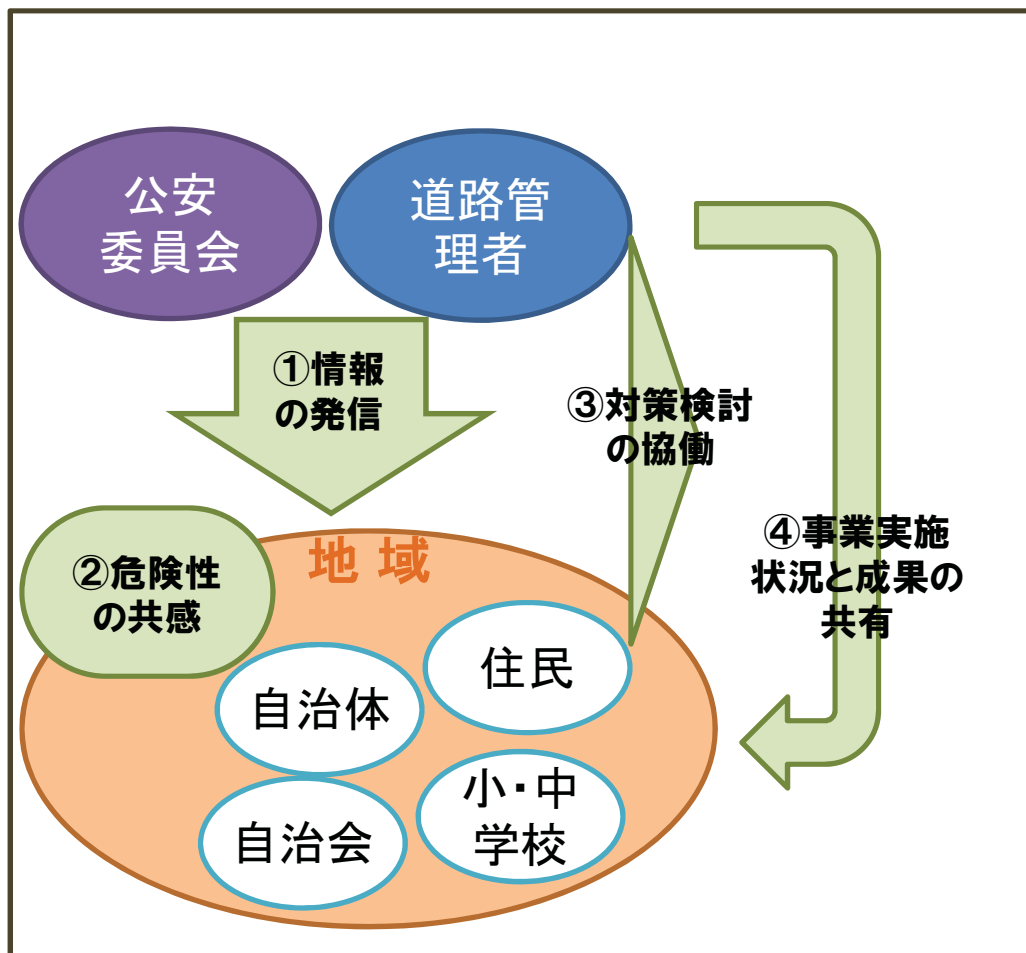
地域連携による現地点検の実施

### 3. 地域連携による交通安全対策の取組み方（1）

#### 地域連携による交通安全対策の取組み

・広報活動を積極的に展開し、①地域へ情報の発信⇒②地域と危険性の共感⇒③地域と対策検討の協働⇒④地域と事業実施状況や成果の共有を図り、地域連携による交通安全対策を推進。

#### ■地域連携による交通安全対策の取組み



#### ①情報の発信

- 事故危険区間の周知  
現地表示(看板設置)や記者発表等の広報活動を展開
- 事故の具体的発生状況資料(道路管理者)や説明(警察)による情報の共有

#### ②危険性の共感

- 広報活動による事故危険区間の認識
- 合同現地地点検等により事故発生区間及びその周辺の危険性を共感

#### ③対策検討の協働

- アンケートや合同現地地点検による協議・意見交換
- 地域の実情、背景を勘案した対策立案

#### ④事業実施状況と成果の共有

- 広報活動により対策実施報告と対策効果を逐次情報発信し、その成果を地域と共有



### 3. 地域連携による交通安全対策の取組み方（2）

#### 事故危険区間の現地表示(看板設置)による危険区間の周知

- ・地域住民が**事故危険区間**を適切に認識することによっても事故削減は期待できる。
- ・地域住民との協働による事故削減に観点により、事故ゼロプランの対象区間である旨の現地表示(注意喚起看板の設置等)を行う。
- ・事故ゼロプランの現地表示は全国で展開。

#### 【設置箇所(区間)の考え方】

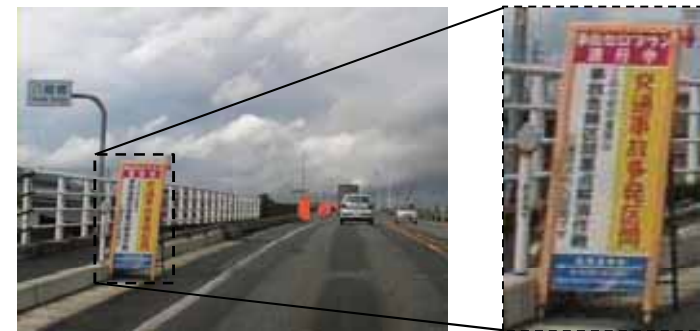
事故多発区間、近年重大事故発生区間等  
地元からニーズがあり、その対応を注目  
している区間から抽出。

#### 【設置区間数】

H23年度中に概ね10区間程度設置予定。



#### ■全国で展開(事例:新潟事故ゼロプラン)



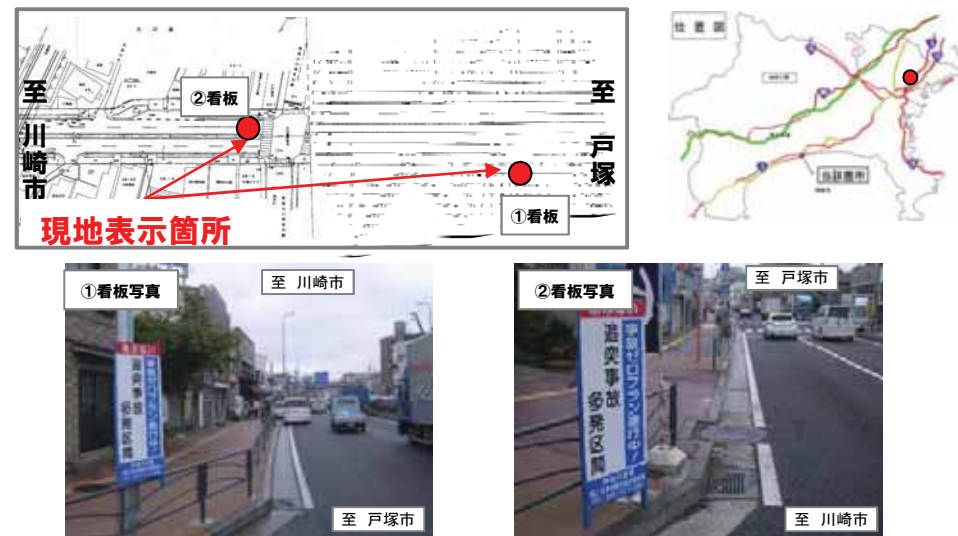
国道17号 新潟県南魚沼市

#### ■神奈川県内の現地表示事例

国道20号相模原市緑区(線形の悪い単路区間)



国道1号 横浜市神奈川区 大口通交差点(追突事故の多い区間)



### 3. 地域連携による交通安全対策の取組み方（3）

#### 地域連携による交通安全対策の取組み 事例：国道1号 崇善小学校前交差点

- ・交通安全見える化計画の取組み「**地域との協働による事故削減**」により、自転車に関係する交通事故が多発している崇善小学校前交差点をモデルケースとして実施。
- ・行政、公安委員会、地元自治会、小中学校、委員会メンバー等で合同現地地点検を実施。

#### 位置図



国道1号 崇善小学校前交差点  
自転車利用が多い交差点で自転車関与の事故の発生割合が約半数近くを占めていた。

#### 地域連携による取組み



(地元の方々との協働による現地診断実施中)

- 【取組みスケジュール】
- H18.11月 現地診断 (地元の方々との協働)
  - H19. 1月 記者発表
    - ・現地診断結果
    - ・交通安全啓蒙
  - H19. 7月 交通事故対策工事着工
  - H19. 8月 交通事故対策工事完了

#### ヒヤリハット等の意見収集、要因分析・対策立案に活用

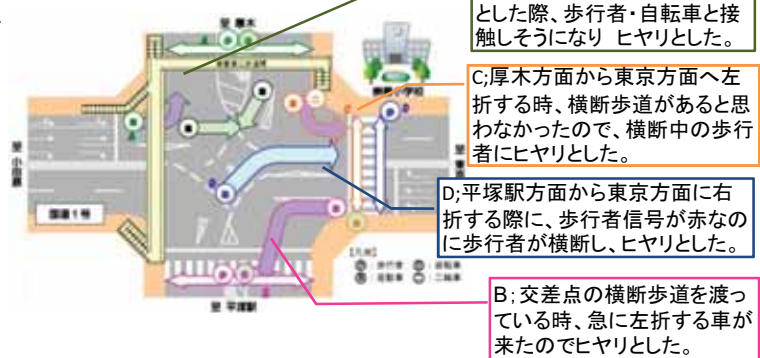
【地域の自転車利用の実情と背景】

- ・通勤通学時間帯は、国道1号を崇善小学校前交差点で横断する自転車が大変多い。
- (平塚駅方面への流れ、小学校付近の追分方面への流れ)

【その他の意見】

- ・崇善小学校前交差点の小学校側にある歩道のコーナーは見通しが悪い。
- ・植栽や案内板が視界を遮っているため見通しが悪い。

#### 【ヒヤリハット意見の収集】

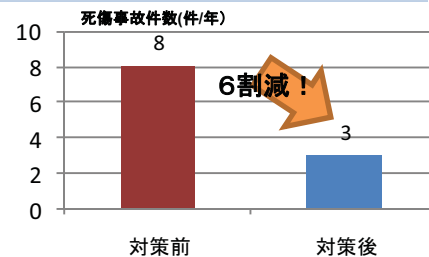


#### 地域の意見を踏まえた対策

- 赤字の対策内容：事故データに基づく対策内容
- 青字の対策内容：パブリックコメントを踏まえた対策内容
- ：事故データに基づく対策とパブリックコメントが合致する対策内容



#### 取組みの成果



- ・交差点全体で8件/年から3件/年。
- ・事故類型別では、人対車両、左折時事故が対策後に0件/年。
- ・自転車関与の事故も0件/年。
- ・右折事故のみ対策後1.25件/年から2件/年に増加。

対策前：H15-18 対策前直近4年間平均  
対策後：H20-21 対策後直近2年間平均

## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告

- ・ 事故危険箇所（H15指定）事業のフォローアップ
- ・ 対策実施事例

対象箇所	対策前※ 選定時	対策後※	
		事故件数	減少割合
神奈川県全体 (約18,000区間)	20,600件/年	17,986件/年	13%減
事故危険箇所(H15指定) (390区間)	2,304件/年	1,332件/年	42%減

事故危険箇所（H15指定）における事業効果



創意工夫による対策展開

## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（1）

### 事故危険箇所(H15指定)事業のフォローアップ

- ・全国の幹線道路を対象に事故発生のおおきい区間等を事故危険箇所として指定し、都道府県公安委員会と道路管理者が連携して集中的な事故抑止対策を実施（H15～19の5年間）。
- ・施策の目標として、死傷事故件数を約3割抑止を掲げる。
- ・ここでは、神奈川県内事故危険箇所(H15指定)；390箇所のフォローアップを実施。今後の対策立案に活用する。

### ■事故危険箇所の事業について

- 死傷事故発生率が高く、又は死傷事故が多発している交差点や単路3, 956箇所を事故危険箇所として指定。都道府県公安委員会と道路管理者が連携して集中的な死傷事故抑止対策を実施。

H15指定箇所・・・H15～19までの5年間で対策実施 **対策概ね終了**  
H20指定箇所・・・H20～24までの5年間で対策実施 **現在取組み中**

### ■神奈川県の事故危険箇所(H15指定)

神奈川県内	横浜国道管理	相武国道管理	神奈川県管理	横浜市管理	川崎市管理
390箇所	109箇所	12箇所	174箇所	68箇所	27箇所

### ■目標

対策実施箇所において、死傷事故件数を約3割抑止。

## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（2）

### 事故危険箇所(H15指定)のフォローアップ ～ 対策効果(全体) ～

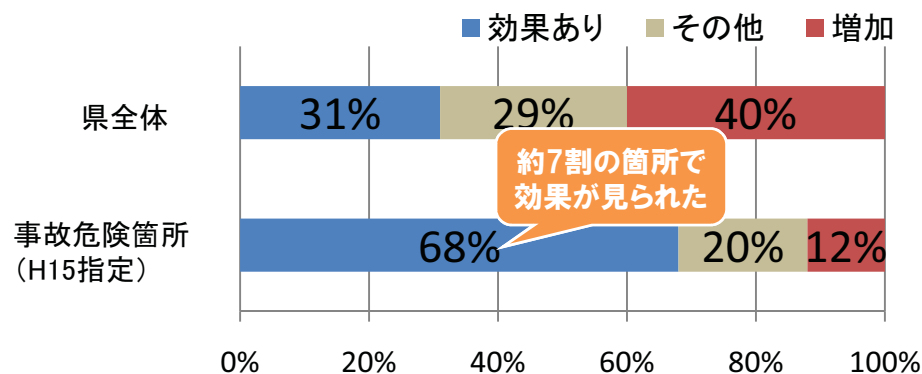
- ・対策前後の事故件数を比較すると、神奈川県全体では1割の減少に対し、**事故危険箇所(H15指定)は4割減少**。
- ・また、県内事故危険箇所(H15指定)の**68%の箇所**で、**死傷事故件数が3割以上減少**し効果が認められた。
- ・事故危険箇所事業による**選択と集中の対策効果がみられた**。

#### ■対策前後の事故件数

対象箇所	対策前※ 選定時	対策後※	
		事故件数	減少率
神奈川県全体 (約16000区間)	20,600件/年	17,986件/年	13%減
県内事故危険箇所(H15指定) (390区間)	2,304件/年	1,332件/年	42%減

※対策前;H8-11(事故危険箇所の選定指標となった4カ年)  
対策後;H20,21(事故危険区間(H15指定)の取組み期間後)

#### ■効果のあった箇所数(死傷事故件数を3割以上抑止できた箇所)



対象箇所	効果があった箇所数 ( )内は全体の割合	増加した箇所数※ ( )内は全体の割合
神奈川県全体 (約16,000区間)	5,012区間 (31%)	4,694区間 (29%)
事故危険箇所 (H15指定)(390区間)	267区間 (68%)	47区間 (12%)

※効果があった箇所  
増加した箇所

;対策前後で3割以上減少した箇所  
;対策前後で増加箇所

## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（3）

### 事故危険箇所(H15指定)のフォローアップ ～ 対策効果(事故類型、当事者別) ～

- ・事故類型別にみると、正面衝突や出合い頭等の対策前後の減少割合が7割前後と高い。また、減少量では、追突事故が高い。
  - ・一方で、人対車両や左折時事故の減少割合が少ない。
  - ・当事者別では、自転車関与の事故の減少割合が最も低く、次いで歩行者関与が低い。
- 左折時(特に自転車事故)や歩行者、自転車関与の事故対策が課題。

#### ■事故類型別の対策効果(事故危険箇所(H15指定)) ■当事者別の対策効果(事故危険箇所(H15指定))

事故類型	対策前	対策後	減少量	減少割合
人対車両	220	158	63	28%
正面衝突	82	21	61	74%
追突	771	409	362	47%
出合頭	265	85	180	68%
左折時	219	178	41	19%
右折時	413	264	150	36%
車両相互 (その他)	233	176	57	24%
車両単独	102	42	60	59%

当事者	対策前	対策後	減少量	減少割合
自動車関与	1,061	497	564	53%
二輪車関与	758	462	296	39%
自転車関与	265	216	49	19%
歩行者関与	220	158	63	28%

■ ; 3割以上減少

# 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（4）

## 対策工種別効果評価 ～ 横浜国道管内での実績 ～

- ・追突事故対策では、減速路面標示や「追突注意」の路面標示や法定外看板を併せて対策した箇所での減少割合が高い。一方で、**単路部での路面標示「追突注意」のみの対策箇所では減少割合が低い。**
- ・左折時事故では、法定外看板での注意喚起により一定の効果がみられるが、**単路部の細街路や沿道施設等での左折時事故に対しては減少割合が低い。**
- ・右折時事故では直進車と右折車の混在を防ぐ右直分離信号や交差点内の走行を安定させる指導線やセンターゼブラ帯の設置等の減少割合が高い。

### ■着目事故別 対策工手別の対策効果(事故危険箇所(H15指定))

着目事故	対策工種	単交区分	対策箇所数	着目事故の事故件数		減少割合
				対策前	対策後	
追突事故	減速路面標示+路面標示「追突注意」+法定外看板「追突注意」	【単路】	11	3.14	1.45	54%
	減速路面標示+路面標示「追突注意」+法定外看板「追突注意」	【交差点】	8	3.06	2.04	33%
	路面標示「追突注意」+法定外看板「追突注意」	【単路】	24	2.68	1.15	52%
	路面標示「追突注意」+法定外看板「追突注意」	【交差点】	39	3.21	1.87	42%
	路面標示「追突注意」	【単路】	3	0.67	0.67	0%
左折時事故	法定外看板「すり抜け二輪車注意」	【単路】	7	1.50	1.21	19%
	法定外看板「すり抜け二輪車注意」	【交差点】	11	1.18	0.73	38%
	法定外看板「出入車両注意」	【単路】	5	1.90	1.97	-4%
右折時事故	指導線	【交差点】	23	2.54	1.24	51%
	信号現示変更(右直分離)	【交差点】	8	2.91	0.99	66%
	法定外看板「出入車両注意」	【単路】	9	2.47	1.30	48%
	法定外看板「右折車注意」	【交差点】	4	1.88	0.88	53%
	法定外看板「すり抜け二輪車注意」	【交差点】	4	1.88	1.21	36%
	センターゼブラ帯	【交差点】	4	2.44	1.25	49%
	横断歩道、停止線の前だし	【交差点】	4	1.88	0.78	59%

**追突事故(セット対策)**



減速路面標示(ドット)、路面標示「追突注意」、法定外看板「追突注意」

**すり抜け二輪車注意 → イラスト化**

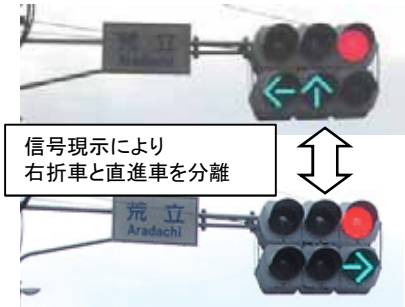


イラストで事故状況を視覚的に注意喚起する

**右折事故(指導線、センターゼブラ)**



**右折事故(右直分離)**



信号現示により右折車と直進車を分離

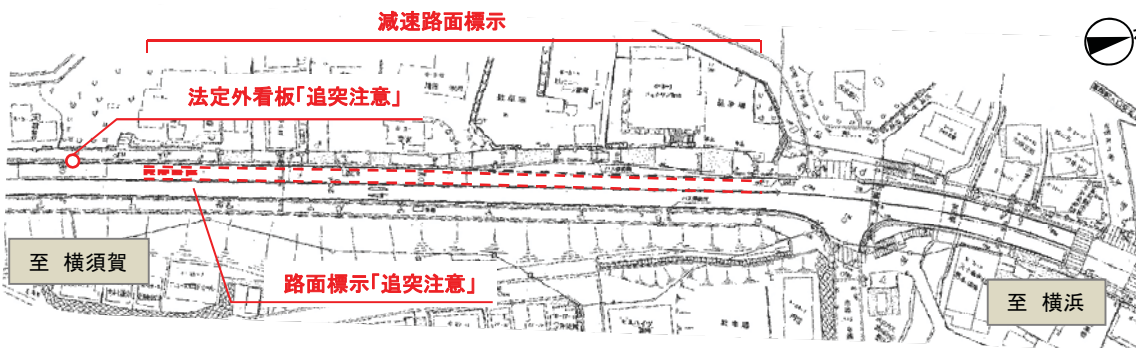
## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（5）

### 対策実施事例① 追突事故のセット対策

・渋滞や大型車による視認性阻害等の交通状況による影響を考慮し、複数の注意喚起対策を併設することにより、対策効果の向上を図る。

#### ■追突事故のセット対策

- 減速路面標示
- 路面標示「追突注意」
- 法定外看板「追突注意」



国道16号（520.549～520.716 kp）  
横浜市金沢区富岡東6丁目3-15  
～横浜市金沢区富岡東6丁目4-16  
事故危険箇所（H15指定） 14533028t

#### 【対策概要】

交差点流入部に減速路面標示を設置し速度抑制を図り併せて「追突注意」の路面標示と法定外看板を設置することよりの注意喚起を行う。

#### 【対策効果】

追突事故の年平均発生件数、対策前3.25件/年から対策後2.00件/年へ約4割削減。



## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（6）

### 対策実施事例②

- ・神奈川県交通安全対策協議会では、効果的な安全対策の実施を目指し、「交通事故対策事例集」を作成（H18～）。
- ・車線数が多く複雑な交差点で進路がわかりにくい箇所には、案内標識と路面の色を統一することでドライバーが直観的に判断できるような工夫。

#### ■対策事例集の作成（H18～）



・幹線道路や生活道路等における交通安全対策について、具体的な対策事例を写真などでわかりやすく解説。

#### 【対策事例集イメージ】



#### ■案内標識と路面の連携(カラー標示)による進路案内



【対策概要】国道15号栄町交差点  
・進路がわかりにくい交差点において案内標識と路面を同色のカラーで標示。

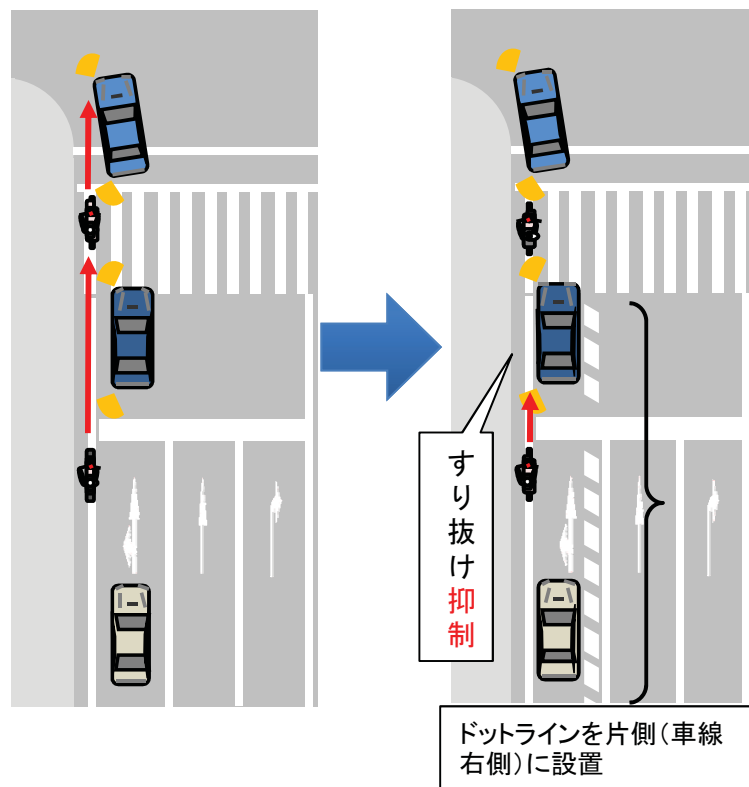


## 4. 神奈川県交通安全対策の取組状況報告（7）

### 対策実施事例③（左折巻き込み事故対策）

- ・左折巻き込み事故の要因の1つである路肩走行やすり抜け走行を防止するため、車線内の右側部分にドットライン（幅広タイプ）を設置。
- ・車の走行位置を路肩側に寄せることで、二輪車（自転車）のすり抜け走行の抑制やすり抜け時の速度抑制に期待。

#### ■二輪車、自転車の左折巻き込み事故対策（ドットラインの片側設置）



#### 対策箇所事例① <sup>まかど</sup>間門交差点



#### 対策箇所事例② あずま歩道橋交差点

##### 【対策概要】

・道路中央側のドットラインの幅を15cmから30cmに太線化。

##### 【対策効果】

・走行車両を路肩側に寄せた結果、路肩側をすり抜ける二輪車が減少。  
・対策前は左折時事故が5件発生していたが、対策後は0件。

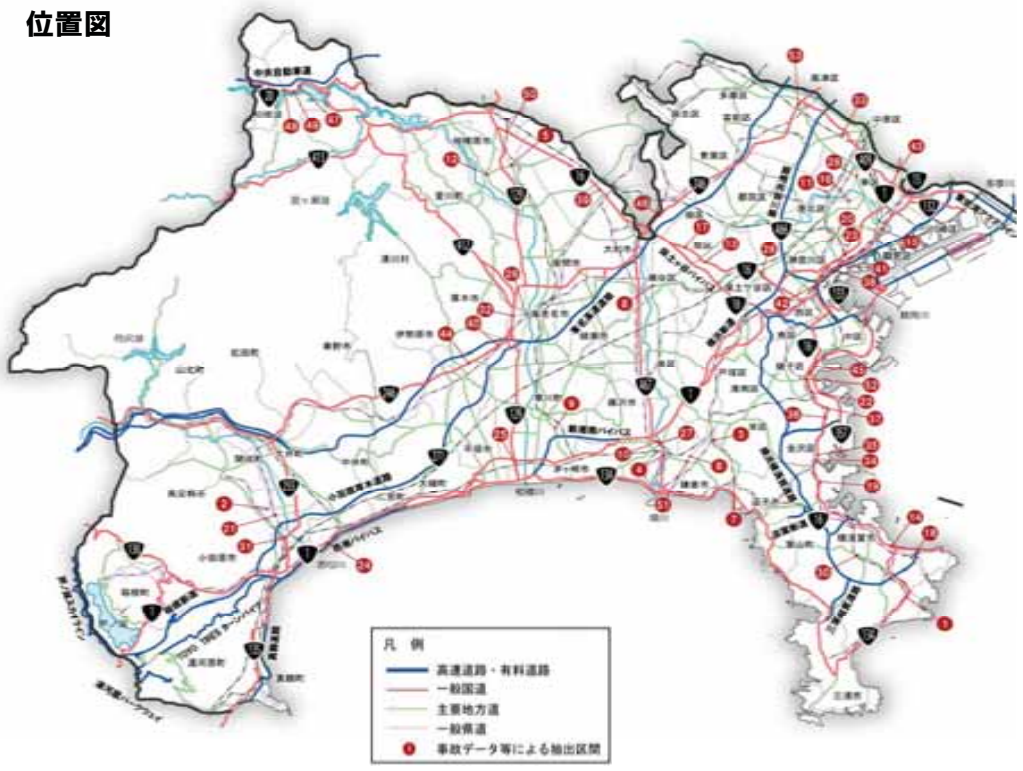


※出典；月刊交通（3月号）

■代表区間の事業進捗状況

No.	路線名	対象区間(地先名)	交差点名	管理主体	選定の視点				事業進捗状況
					死傷事故率	神奈川県内の事故	安全性の危惧	ヒヤリハット箇所	
1	国道134号	横須賀市久里浜5丁目	久里浜	神奈川県	●	●			要因分析・対策立案中
2	県道717号	小田原市柳新田40-1 ～堀之内交差点付近	—	神奈川県	●	●			事業完了
3	県道301号	鎌倉市大船1丁目	大船駅東口交通広場前	神奈川県	●	●			要因分析・対策立案中
4	国道467号	藤沢市南藤沢	南藤沢	神奈川県	●	●	●		要因分析・対策立案中
5	主要地方道54号	相模原市上溝5丁目	上溝	相模原市	●	●	●		要因分析・対策立案中
6	県道304号	鎌倉市梶原	古館橋	神奈川県	●	●			要因分析・対策立案中
7	主要地方道21号	鎌倉市小町1丁目	鎌倉市小町	神奈川県	●	●			要因分析・対策立案中
8	県道40号	横浜市瀬谷区瀬谷4丁目	瀬谷四丁目	横浜市	●	●			要因分析・対策立案中
9	主要地方道44号	茅ヶ崎市香川4丁目	変電所前	神奈川県	●	●			要因分析・対策立案中
10	国道467号	藤沢市朝日町	郵便局前	神奈川県	●	●	●		要因分析・対策立案中
11	県道111号	横浜市鶴見区駒岡3丁目	駒岡交番前	横浜市					事業中
12	主要地方道48号	相模原市中央区田名	上田名	相模原市					事業中
13	国道16号	横浜市旭区今宿西町	築池	国					関係機関調整中
14	国道16号	横須賀市三春町4丁目	三春町四丁目	国					関係機関調整中
15	国道15号	横浜市鶴見区鶴見中央4丁目	鶴見署前	国			●		事業中
16	県道106号	横浜市港北区綱島西2丁目	綱島駅西口	横浜市			●		要因分析・対策立案中
17	国道16号	横浜市旭区川井本町	川井本町	国					事業完了
18	県道208号	横須賀市桜が丘2丁目	桜ヶ丘入口	神奈川県					要因分析・対策立案中
19	国道16号	横須賀市追浜本町1丁目	追浜駅前	国			●		要因分析・対策立案中
20	県道2号	横浜市港北区菊名2丁目	港北小学校入口	横浜市					要因分析・対策立案中
21	県道720号	小田原市蓮正寺	蛸田駅前	神奈川県					事業完了
22	国道16号	横浜市磯子区杉田1丁目	聖天橋	国			●		要因分析・対策立案中
23	国道1号	横浜市神奈川区入江1丁目	入江町	国			●		要因分析・対策立案中
24	国道1号	小田原市酒匂4丁目	酒匂県営住宅入口	国					要因分析・対策立案中
25	国道129号	平塚市馬入本町	馬入本町	神奈川県					要因分析・対策立案中
26	主要地方道40号	厚木市厚木町	東町郵便局前	神奈川県					要因分析・対策立案中
27	国道467号	藤沢市本町1丁目	藤沢橋	神奈川県			●		要因分析・対策立案中
28	国道16号	横浜市保土ヶ谷区東川島町	東川島町西	国					要因分析・対策立案中
29	主要地方道14号	川崎市幸区北加瀬3丁目	北加瀬	川崎市					要因分析・対策立案中
30	主要地方道27号	横須賀市衣笠栄町3丁目	三浦高校前	神奈川県					要因分析・対策立案中
31	国道255号	小田原市原町5丁目	飯泉入口	神奈川県					事業完了
32	国道246号	厚木市水引1丁目	水引	国				●	関係機関調整中
33	主要地方道45号	川崎市中原区上小田中6丁目	上小田中	川崎市					要因分析・対策立案中
34	国道16号	横浜市金沢区泥亀1丁目	金沢警察署前	国					要因分析・対策立案中
35	国道16号	横浜市金沢区泥亀2丁目	泥亀二丁目	国					事業完了
36	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	青砥坂	国			●		要因分析・対策立案中
37	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	杉田	国				●	事業中
38	国道15号	横浜市神奈川区神奈川2丁目	神奈川二丁目	国				●	事業中
39	国道16号	相模原市中央区共和3丁目	大野台郵便局前	国					関係機関調整中
40	国道246号	厚木市愛甲983	愛甲宮前	国					事業中
41	国道15号	横浜市神奈川区新町	出田町入口	国					事業中
42	国道1号	横浜市神奈川区金港町	金港町	国					関係機関調整中
43	国道1号	川崎市幸区東古市場	多摩川大橋付近	国					事業中
44	国道246号	伊勢原市下糟屋付近	—	国					事業中
45	国道357号	横浜市磯子区新磯子町磯子駅付近	—	国					事業中
46	国道246号	横浜市緑区長津田町 つくしの交差点付近	—	国					事業中
47	国道20号	相模原市藤野町吉野付近	—	国					事業中
48	国道20号	相模原市藤野町小淵付近	—	国					事業中
49	国道20号	相模原市藤野町小淵付近	—	国					事業中
50	国道16号	相模原市中央区南橋本1丁目 大河原陸橋付近	—	国				●	要因分析・対策立案中
51	主要地方道32号	鎌倉市手広1丁目	手広	神奈川県			●		要因分析・対策立案中
52	国道16号	横浜市磯子区森3丁目	屏風ヶ浦	国				●	関係機関調整中
53	国道246号	川崎市高津区溝口2丁目	切通し	国				●	要因分析・対策立案中

位置図



## 5. 今後のスケジュール

・次回の委員会は今回の審議内容を反映させた結果の報告及び事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」に関する取組みについて報告する。

### 第8回委員会(本日)

- ・事故危険区間重点解消作戦「事故ゼロプラン」の進め方
- ・地域連携による交通安全対策の取組み方について
- ・神奈川県交通安全対策の取組み

### 第9回委員会(来年2月ごろ開催予定)

- ・第8回審議結果の対応
- ・ロングリストの更新結果の報告
- ・事故危険区間重点解消作戦の取組みの報告  
(対策実施箇所等の紹介)
- ・対策効果が見られない区間の追加対策検討事例

■代表区間の事故発生状況  
 ~ 最新事故データによる事故危険区間選定基準の確認 ~

前提条件(16件/4年)を満たさない箇所

No.	路線名	対象区間(地先名)	交差点名	管理主体	死傷事故発生状況				選定の視点				備考	
					選定時 (H17-20)		更新時 (H18-21)		死傷事故率	アンケート指標	交通安全事故特性	安全性の危惧		ヒヤリハット箇所
					件数	事故率	件数	事故率						
1	国道134号	横須賀市久里浜5丁目	久里浜	神奈川県	35	2,076.6	35	2,076.6	●	●				
2	県道717号	小田原市柳新田40-1 ~堀之内交差点付近	-	神奈川県	37	1,836.7	32	1,588.5	●	●				
3	県道301号	鎌倉市大船1丁目	大船駅東口交通広場前	神奈川県	16	1,652.9	15	1,549.9	●	●			・前提条件(16件/4年)を満たさない	
4	国道467号	藤沢市南藤沢	南藤沢	神奈川県	41	1,606.9	30	1,175.8	●	●		●		
5	主要地方道54号	相模原市上溝5丁目	上溝	相模原市	29	1,561.2	36	1,938.0	●	●		●		
6	県道304号	鎌倉市梶原	古館橋	神奈川県	20	1,537.1	20	1,537.1	●	●				
7	主要地方道21号	鎌倉市小町1丁目	鎌倉市小町	神奈川県	24	1,497.4	20	1,247.9	●	●				
8	県道40号	横浜市瀬谷区瀬谷4丁目	瀬谷四丁目	横浜市	38	1,453.2	42	1,606.2	●	●				
9	主要地方道44号	茅ヶ崎市香川4丁目	変電所前	神奈川県	28	1,408.2	27	1,357.9	●	●				
10	国道467号	藤沢市朝日町	郵便局前	神奈川県	35	1,371.7	32	1,254.2	●	●		●		
11	県道111号	横浜市鶴見区駒岡3丁目	駒岡交番前	横浜市	23	1,092.2	33	1,567.2	●	●				
12	主要地方道48号	相模原市中央区田名	上田名	相模原市	26	1,040.6	25	1,000.6	●	●				
13	国道16号	横浜市旭区今宿西町	築池	国	25	1,001.5	21	841.3	●	●				
14	国道16号	横須賀市三春町4丁目	三春町四丁目	国	17	996.9	12	703.7	●	●			・前提条件(16件/4年)を満たさない	
15	国道15号	横浜市鶴見区鶴見中央4丁目	鶴見署前	国	49	994.8	43	873.0	●	●	●	●		
16	県道106号	横浜市港北区綱島西2丁目	綱島駅西口	横浜市	17	946.9	14	779.9	●	●		●	・前提条件(16件/4年)を満たさない	
17	国道16号	横浜市旭区川井本町	川井本町	国	23	921.4	23	921.4	●	●				
18	県道208号	横須賀市桜が丘2丁目	桜ヶ丘入口	神奈川県	25	884.1	23	813.3	●	●				
19	国道16号	横須賀市浜浜本町1丁目	追浜駅前	国	39	862.3	38	840.2	●	●		●		
20	県道2号	横浜市港北区菊名2丁目	港北小学校入口	横浜市	22	828.7	26	979.4	●	●				
21	県道720号	小田原市蓮正寺	蛸田駅前	神奈川県	16	685.6	18	771.4	●	●				
22	国道16号	横浜市磯子区杉田1丁目	聖天橋	国	24	651.1	26	705.4	●	●		●		
23	国道1号	横浜市神奈川区入江1丁目	入江町	国	31	582.6	34	638.9	●	●		●		
24	国道1号	小田原市澁谷4丁目	澁谷県営住宅入口	国	18	519.8	25	722.0	●	●				
25	国道129号	平塚市馬入本町	馬入本町	神奈川県	21	1,228.8	16	936.3	●	●				
26	主要地方道40号	厚木市厚木町	東町郵便局前	神奈川県	31	1,081.8	26	907.4	●	●				
27	国道467号	藤沢市小町1丁目	藤沢橋	神奈川県	26	1,019.0	29	1,136.7	●	●		●		
28	国道16号	横浜市保土ヶ谷区東川島町	東川島町西	国	34	917.2	32	863.3	●	●		●		
29	主要地方道14号	川崎市幸区北加瀬3丁目	北加瀬	川崎市	31	910.3	30	880.9	●	●				
30	主要地方道27号	横須賀市衣笠栄町3丁目	三浦高校前	神奈川県	22	884.3	23	924.6	●	●				
31	国道255号	小田原市扇町5丁目	飯泉入口	神奈川県	24	845.2	21	739.6	●	●				
32	国道246号	厚木市水引1丁目	水引	国	17	798.6	19	892.5	●	●		●		
33	主要地方道45号	川崎市中原区上小田中6丁目	上小田中	川崎市	17	774.6	10	455.6	●	●			・前提条件(16件/4年)を満たさない	
34	国道16号	横浜市金沢区泥亀1丁目	金沢警察署前	国	25	678.2	21	569.7	●	●				
35	国道16号	横浜市金沢区泥亀2丁目	泥亀二丁目	国	25	678.2	25	678.2	●	●				
36	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	青砥坂	国	21	569.7	19	515.5	●	●				
37	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	杉田	国	24	651.1	16	434.1	●	●	●			
38	国道15号	横浜市神奈川区神奈川2丁目	神奈川二丁目	国	32	430.4	24	322.8	●	●				
39	国道16号	相模原市中央区共和3丁目	大野台郵便局前	国	22	315.2	13	186.2	●	●				
40	国道246号	厚木市愛甲983	愛甲宮前	国	13	424.3	8	261.1	●	●				
41	国道15号	横浜市神奈川区新町	出田町入口	国	21	282.5	16	215.2	●	●				
42	国道1号	横浜市神奈川区金港町	金港町	国	24	265.5	35	387.2	●	●				
43	国道1号	川崎市幸区東古市場	多摩川大橋付近	国	19	246.0	23	297.8	●	●				
44	国道246号	伊勢原市下榎屋付近	-	国	11	239.3	11	239.3	●	●				
45	国道357号	横浜市磯子区新磯子町 磯子駅付近	-	国	10	133.7	9	120.4	●	●				
46	国道246号	横浜市緑区長津田町	-	国	18	104.5	20	116.1	●	●				
47	国道20号	相模原市藤野町吉野付近	-	国	4	51.2	4	51.2	●	●				
48	国道20号	相模原市藤野町小淵付近	-	国	4	51.1	1	12.8	●	●				
49	国道20号	相模原市藤野町小淵付近	-	国	4	46.3	4	46.4	●	●				
50	国道16号	相模原市中央区南橋本1丁目 大河原陸橋付近	-	国	5	26.8	4	21.4	●	●				
51	主要地方道32号	鎌倉市手広1丁目	手広	神奈川県	19	583.9	18	553.1	●	●		●		
52	国道16号	横浜市磯子区森3丁目	屏風ヶ浦	国	22	316.3	25	359.4	●	●		●		
53	国道246号	川崎市高津区溝口2丁目	切通し	国	25	131.6	21	110.5	●	●		●		

事故危険区間選定時(H17-20)の選定指標とその基準値

指標	選定基準	選定基準の基準値 (H17-20) 4年平均(合計)値	備考	抽出 箇所数 (県管含む)
死傷事故件数	足切り基準	16件/4年以上		
死傷事故率	ワースト500	301.6件/億台km		500箇所
アンケート指標	重大事故率	194.1件/億台km	2件	50箇所
		6.6件/億台km		44箇所
		149.7件/億台km		50箇所
		783.8件/億台km		50箇所
交通安全事故	あんしん歩行エリア※	218.7件/億台km		50箇所
		256.3件/億台km		50箇所
		57.5件/億台km	4件	50箇所
		120.2件/億台km		50箇所
		184.6件/億台km		50箇所
		285.2件/億台km		50箇所
高年齢者事故率		28.7件/億台km		43箇所

※当該箇所該当する区間の死傷事故率でランクづけしている

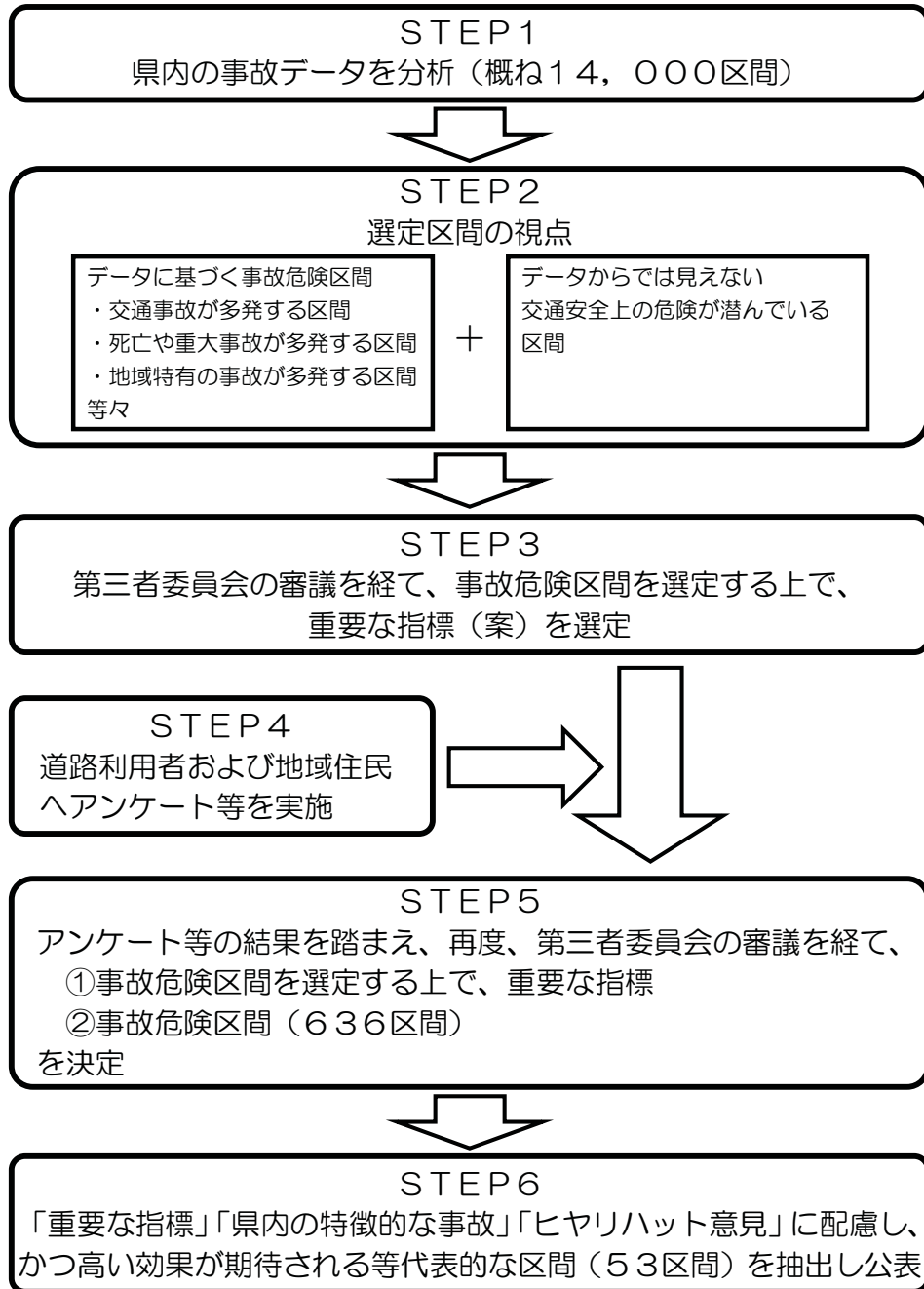
「地域の声」により選定された箇所

No.37~50は、「安全性の危惧」により選定された箇所

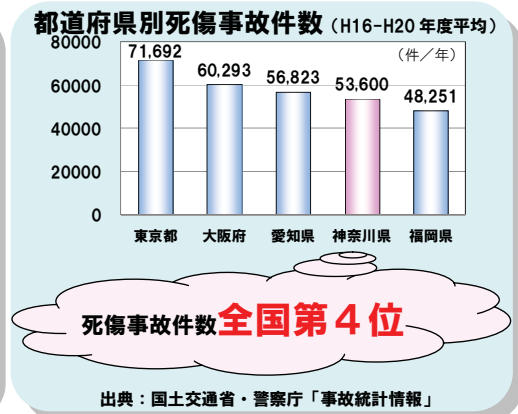
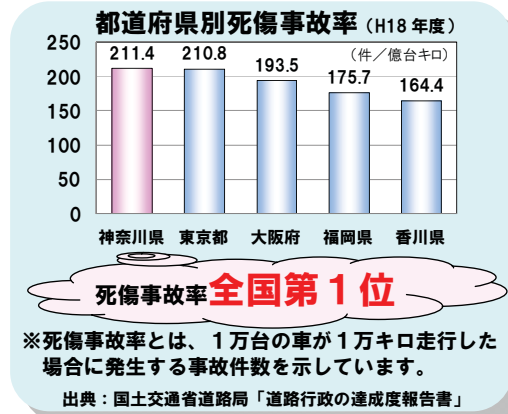
No.50~53は、アンケートの意見と勘案した箇所

事故危険区間の選定基準は、選定時における県内ワースト●位としているため、今回の最新事故データによる確認は、選定時におけるワースト●位の事故率を選定基準としている。

# 神奈川県内の事故危険区間の選定プロセス



# 神奈川県事故ゼロプラン （事故危険区間重点解消作戦）



- ～神奈川県の特徴～
- ・死傷事故件数が非常に多い
  - ・自動車事故に次いで「二輪車」「自転車」が関連する事故が多い
  - ・死亡につながる危険性の高い事故は「人（歩行者）対車両」が多い
  - ・中でも「子供」「高齢者」が被害に遭う事故が多い

- ・事故データおよび道路利用者等の声から、県内の事故危険区間を抽出する上で重要な指標を選定し、事故危険区間を決定しました。
- ・そのうち、「重要な指標」「県内の特徴的な事故」「ヒヤリハット意見」配慮して、県内の交通事故等の課題を有する区間を抽出しましたのでお知らせします。
- ・抽出された課題区間は、早期に対策が可能で、かつ高い効果が期待される区間から対策を実施していきます。

平成 22 年 12 月

**神奈川県安全性向上委員会**  
横浜国道事務所、相武国道事務所、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市

# 神奈川県内 主な事故危険区間

神奈川県事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)

## 神奈川県の主な事故危険区間

## 位置図

No.	路線名	対象区間(地先名)	交差点名	管理主体	選定の視点		
					死傷事故率	特徴的な事故	安全性の危険
1	国道134号	横浜市中区久里浜5丁目	久里浜	神奈川県	●	●	
2	県道717号	小田原市柳瀬田40-1～堀之内交差点付近	—	神奈川県	●	●	
3	県道301号	鎌倉市大船1丁目	大船駅東口交通広場前	神奈川県	●	●	
4	国道467号	藤沢市南藤沢	南藤沢	神奈川県	●	●	●
5	主要地方道54号	相模原市上溝5丁目	上溝	相模原市	●	●	●
6	県道304号	鎌倉市磯原	古館橋	神奈川県	●	●	
7	主要地方道21号	鎌倉市小町1丁目	鎌倉市小町	神奈川県	●	●	
8	県道40号	横浜市瀬谷区瀬谷4丁目	瀬谷4丁目	横浜市	●	●	
9	主要地方道44号	茅ヶ崎市香川4丁目	変電所前	神奈川県	●	●	
10	国道467号	藤沢市朝日町	郵便局前	神奈川県	●	●	●
11	県道111号	横浜市鶴見区駒岡3丁目	駒岡交番前	横浜市	●	●	
12	主要地方道48号	相模原市中央区田名	上田名	相模原市	●	●	
13	国道16号	横浜市旭区今宿西町	築池	国	●	●	
14	国道16号	横浜市中区三軒四丁目	三軒四丁目	国	●	●	
15	国道15号	横浜市鶴見区鶴見中央4丁目	鶴見署前	国	●	●	●
16	県道106号	横浜市港北区綱島西2丁目	綱島駅西口	横浜市	●	●	●
17	国道16号	横浜市旭区川井本町	川井本町	国	●	●	
18	県道208号	横浜市中区桜が丘2丁目	桜が丘入口	神奈川県	●	●	
19	国道16号	横浜市中区通浜本町1丁目	通浜駅前	国	●	●	●
20	県道2号	横浜市港北区菊名2丁目	港北小学校入口	横浜市	●	●	
21	県道720号	小田原市蓮正寺	蓮正寺	神奈川県	●	●	
22	国道16号	横浜市磯子区杉田1丁目	聖天橋	国	●	●	●
23	国道1号	横浜市神奈川区入江1丁目	入江町	国	●	●	●
24	国道1号	小田原市酒匂4丁目	酒匂県営住宅入口	国	●	●	
25	国道129号	平塚市馬入本町	馬入本町	神奈川県	●	●	
26	主要地方道40号	厚木市厚木町	厚木郵便局前	神奈川県	●	●	
27	国道467号	藤沢市本町1丁目	藤沢橋	神奈川県	●	●	●
28	国道16号	横浜市保土ヶ谷区東川島町	東川島町西	国	●	●	●
29	主要地方道14号	川崎市幸区北加瀬3丁目	北加瀬	川崎市	●	●	
30	主要地方道27号	横浜市中区衣笠栄町3丁目	三浦高校前	神奈川県	●	●	
31	国道255号	小田原市原町5丁目	飯倉入口	神奈川県	●	●	
32	国道246号	厚木市水引1丁目	水引	国	●	●	●
33	主要地方道45号	川崎市中原区上小田中6丁目	上小田中	川崎市	●	●	
34	国道16号	横浜市金沢区泥亀1丁目	金沢警察署前	国	●	●	
35	国道16号	横浜市金沢区泥亀2丁目	泥亀二丁目	国	●	●	
36	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	青砥坂	国	●	●	
37	国道16号	横浜市磯子区杉田5丁目	杉田	国	●	●	●
38	国道15号	横浜市神奈川区神奈川2丁目	神奈川二丁目	国	●	●	●
39	国道16号	相模原市中央区共和3丁目	大野台郵便局前	国	●	●	
40	国道246号	厚木市愛甲983	愛甲宮前	国	●	●	
41	国道15号	横浜市神奈川区新町	出田町入口	国	●	●	
42	国道1号	横浜市神奈川区金港町	金港町	国	●	●	
43	国道1号	川崎市幸区東古市場	多摩川大橋付近	国	●	●	
44	国道246号	伊勢原市下糟屋付近	—	国	●	●	
45	国道357号	横浜市磯子区新磯子町磯子駅付近	—	国	●	●	
46	国道246号	横浜市緑区長津田町つくしの交差点付近	—	国	●	●	
47	国道20号	相模原市緑野町吉野付近	—	国	●	●	
48	国道20号	相模原市緑野町小淵付近	—	国	●	●	
49	国道20号	相模原市緑野町小淵付近	—	国	●	●	
50	国道16号	相模原市中央区南橋本1丁目大原原橋横付近	—	国	●	●	
51	主要地方道32号	鎌倉市手広1丁目	手広	神奈川県	●	●	●
52	国道16号	横浜市磯子区森3丁目	屏風ヶ浦	国	●	●	●
53	国道246号	川崎市高津区溝口2丁目	切通し	国	●	●	●



事故危険区間 (636 区間) の抽出の視点

死傷事故率	死傷事故率の県内上位500箇所を抽出
神奈川県内の特徴的な事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>追突事故</li> <li>左折事故</li> <li>右折事故</li> <li>二輪車が関連する事故</li> <li>自転車が関連する事故</li> <li>歩行者が関連する事故</li> <li>亡くなられる方が多い重大な事故</li> <li>子供が被害に遭う事故</li> <li>高齢者が被害に遭う事故</li> <li>通学路として使用されている道路</li> <li>歩行者が多い道路 (あんしん歩行エリア)</li> </ul>
安全性の危険	地域からの声、事故発生の危険の可能性が考えられる箇所を抽出
アンケート結果の反映	アンケートにより、ヒヤリハット箇所として、多くの意見が寄せられた箇所を抽出